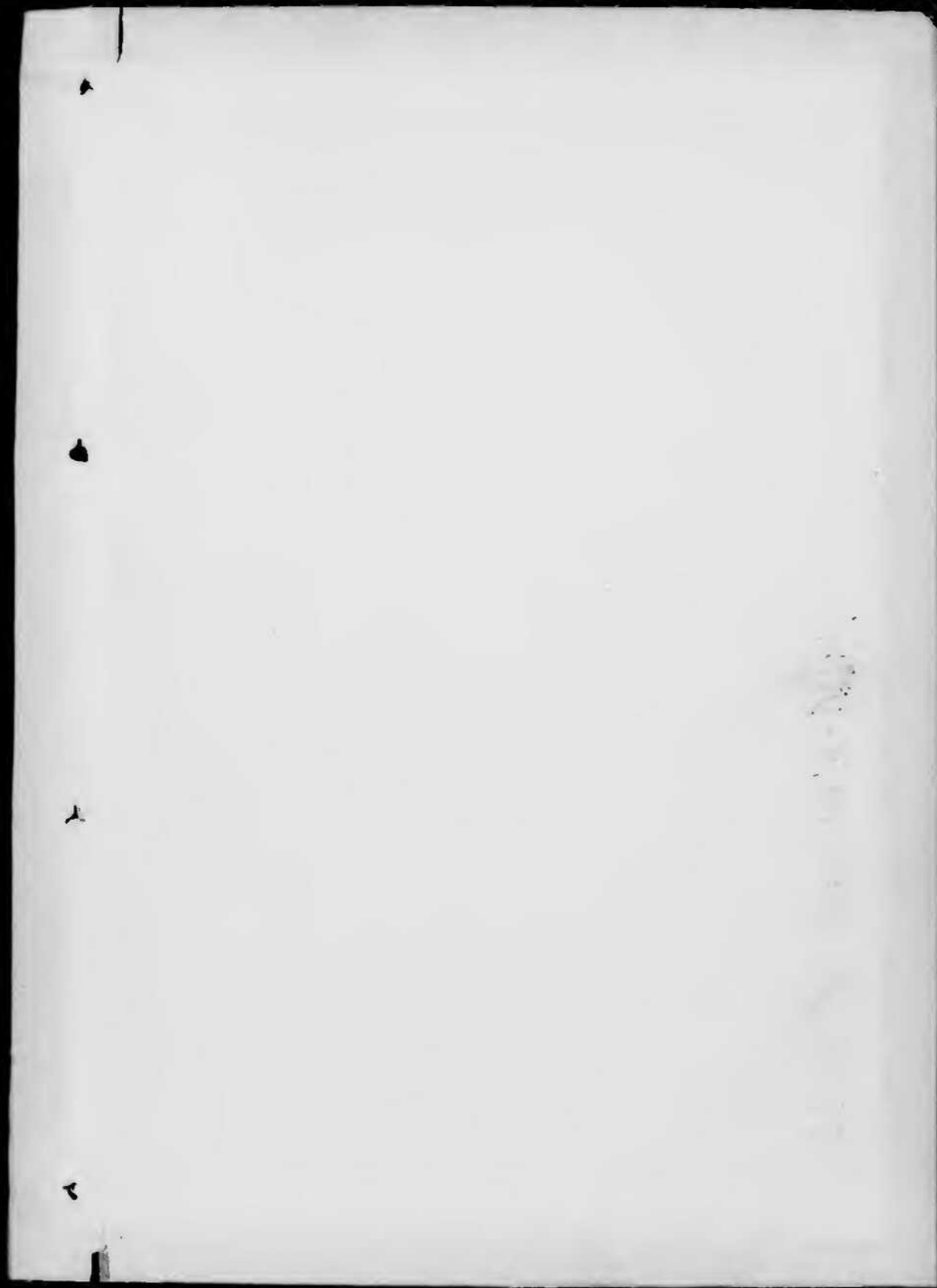


自明治三十七年
至大正十五年

本省通牒

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

国立公文書館	
分類	自治省
	(48)
排架番号	3 A
	13-9
	302



63

内務大臣官房人事課

裏面白紙

番 號

一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
四	三	三	三	一	三	八	七	四	三	三	九	五	一	一	四	一	八
八	五	六	〇	五	四	七	一	〇	二	九	三	二	二	四	一	七	七
																	明治二十七年

目 録

件 名

- 一 日英間對等條約締結ノ件
- 二 進歩黨ヨリ要請ニ付政府ノ態度ニ関スル件
- 三 郡長島司ノ非職免官内申事由ニ関スル件
- 四 高等官年功加俸ニ関スル件
- 五 高等官省京飯任届方勵行ノ件
- 六 行幸啓ノ際取締方ノ件
- 七 寄付金募集ニ関スル取扱方ノ件
- 八 叙勲者具狀期日ニ関スル件
- 九 高等文官ニシテ収用審査會員タル者ニ関スル件
- 一〇 北海道廳歳出豫算施行上ノ件
- 一一 三川分流工事成工式ニ関スル件
- 一二 暑中賜暇ニ関スル件
- 一三 南洋公學ニ報告類寄贈ニ関スル件
- 一四 官吏力政黨ニ偏私スヘカラサルノ件
- 一五 知事上京伺ニ関スル件
- 一六 叙位ノ位記ニ對スル請書ヲ要セザルノ件
- 一七 叙勲進叙年数計算方ニ関スル件
- 一八 賞與金年度區分ニ関スル件

内 務 省

一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七
三四	三四	九	〇	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
收用審査會委員命免内申ニ関スル件	府縣官吏會同ノ義ニ付訓令	郡長カ金品受領經伺ノ場合意見副申ニ関スル件	各有縣旅費増額請求注意方ノ件	警察關係電報符合ニ関スル件	府縣參事會員補命方ノ件	郡長退官休職者再任ノ期間ニ関スル件	叙勲内申ニ関スル注意スル事項ノ件	會計年度區分ニ関シ注意ノ件	行幸啓ニ関シ地方長官奉送迎方心得ノ件	叙勲者具狀期並身分異動報告ニ関スル件	府縣參事會員補命方ノ件	地方官之制改正方ノ通知	土地收用審査會委員ノ件	隣接地官外出張ニ伺出ヲ要セサルノ件	地方官ヲシテ私設團體ノ囑託ニ應ヒシメザルノ件	特別任用ニ依ル判任官ヲ郡長ニ詮衡シ得ルノ件	恒例儀式參賀參拜ニ関スル件	詮衡ヲ要スル高等官任用内申ニ履歷書添

内務省

付方ノ件

三八 四二九 恩給停止通知方ニ関スル件

三九 七二八 發言察官吏海外出張ニ関スル件

四〇 七一六 拘禁拘留中ノ刑事被告人逃走ノ際發言察
署長ノ懲戒ニ斟酌ヲ加フルノ件

四一 二一〇 地方費支辨吏員増俸取扱方ノ件

四二 四四七 府縣知事外國軍艦間訪問方ニ関スル件

四三 二二二 府縣知事ニ對スル外國軍艦禮砲謝絶ノ件

四四 一〇二 臨時治水事業費技師任免内申ノ費目記入
件

四五 四六六 地方高等官ノ叙位内申ヲ要セサルノ件

内務省

四六 大正元 八二六 發言察署長ノ懲戒ニ関スル件 (刑事被告人鑑
死ノ場合ノ取扱)

四七 大正二 一三九 行政整理ニ依ル府縣判任官定員減少方ノ件

四八 七二六 府縣理事官ノ中一名ノ有資格者中ヨリ任用ノ件

四九 四三二 地方行政刷新意見提出方ノ件

五〇 七二四 高等官官等陞叙内申書式ノ件

五一 八二七 叙勲内申後身分異動報告方ノ件

五二 九一七 參政官副參政官合議事項

五三 一〇一六 行幸啓ノ際地方官宮庭列車便乘ニ関スル件

五四 五二九 大正六年度動員計畫部隊要員ヨリ削除スル者
府縣技師高等官四等以上ニ陞叙内申ニ関スル件

五五 一三二 府縣技師高等官四等以上ニ陞叙内申ニ関スル件

五五^ハ六^六
八^七

地方長官隣接地ニ出張ノ經伺方訓令改

正ノ件

五六^ニ
三^{一〇}

俸給令ノ級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クル高等官ニ關スル調

五七^ニ
三^{三〇}

内務省文書處分事項中改正訓令

五八^ニ
六^{一〇}

社會事業事務ニ従事スル理事官増員ニ關シ通牒

内務省

ハリキキ
子以男を
抱り

明治十七年八月廿七日

大臣 次官

秘書友

右府縣知事、北海道廳管、電

報案 (暗号)

此度日英間對等、條約御批准交換
相濟タリ治外法權、五ヶ年、後無條
件ニテ回復シ英國人ニハ内地雜居ヲ許
スモ土地所有權ヲ與ヘス

大臣

北海道廳長友、
右府縣知事、
内務省

晴々電報

考知知し丸

丸

過日未進歩走り 總理之

要請之何アリ之政府ニ事ナリ

吾所信ヲ執テ部ナス同大臣ニ其

職責ノ一ニ所ヲ示シ之ヲ拒絶セ

ラレタリ又之良吏ニシテ官紀上程

當ク公ク行爲ヲ爲スモノアリ信

以テ之ニ仰此等ニ好シ速ニ過者

ノ感分ヲ得リトス其為念内示ス



過日來進歩党ヨリ總理大臣ハ要請スル
 所アリシモ政府ハ素ヨリ其所信ヲ執テ動
 カス同大臣ハ其職責ノアル所ヲ示シ之ヲ
 拒絶セラレタリ又官吏ニシテ官紀上穩
 當ヲ欠ク行爲ヲ爲スモノアルニ依リ政府
 ハ無論此等ニ對シ速ニ適當ノ處分ヲ爲
 サトス右為念内示ス
 明治三十年十月二日

内務大臣伯耆樺山資紀

安場北海道廳長官殿
 敬視 德監山田為暄殿

東京府知事子爵岡部長政殿
 石川縣知事古澤 浩殿
 山形縣知事菊池九郎 浩殿
 宮城縣知事樺山資雄 殿
 奈良縣知事水野宣中 殿
 山梨縣知事伯耆清棲家 殿
 栃木縣知事江本千之 殿

明治三十三年四月十日

大臣 次官 秘書長

四月十日

秘

三

内訓案
從來郡長島司ノ非職又ハ免官ニ関
スル内申方リ單々縣治ノ都合トシテ
記シ往々事由ノ記載ナク又ハ委詳シテ
シモノ不敷右ハ高等官ノ進退ニ関シ不都
合ラズ案ハ後右等ノ場合ニハ詳細事
由ヲ具状スル儀ト心得ラレム

大臣

内務省

右内訓案

甲

十一日
公

明治三十一年十一月四日
大臣閣下
次官
秘書官 井上

府縣知事へ通牒
今回勅令第三百二十一號
高等官俸給令中一箇條ヲ追加セ
現今年功加俸ノ制ヲ設ケテシテ
現今之ニ對スル豫算無之ニ付本
年度ハ勿論來年度モ其豫算
成立ノ後ニ非ズシテ
相成共到底迄無之請
ニ對スル法中申書提出方以是控
相成共様致度依命為念此
段及通牒也

府縣知事宛
秘書官

明治三十一年一月十二日

秘書長 井上

三

通牒案

高木官出京及帰任ノ節ハ其旨又
不届出ニテハ中袋ニテ處迄來大
用件ノ見場人ノ如キハ性ニ不却合
生シニ付自今其知及又不届出
也 棟 七 遣 主 大 年 交 以 般 及 内 據

通牒長友 齊良 知性友

迄テ着末ノ節ハ必不届出ノ所記也
シメラレ交為念中候

五

裏面白紙

行幸路ノ際取締方ニ付スル件

内務省訓令第百四十八號

私事

兩陛下幸ニ皇太子殿下行幸路ノ際取締上十分ノ注意
意ヲ要スルハ勿論ニ候得共其レヲ為交通ヲ妨ケ人氏ニ不
便ヲ與ルル下ハ御旨意ニ有之間敷候ニ付御通路及行車
場ニ於テ取締向別紙ノ通心得テス

明治三十二年九月十二日

内務大臣候齋西郷從道

庶務局長員 兼 事務局長

六

- 一 御通車ノ際ハ不敬ニ涉ラサル限リハ成ルヘク通行及拜観ノ便ヲ與ヘ行通ハ御先驅ニ先ツ警部(御先驅ヨリ凡ソ一ニ前進スルヲ例トス)ノ通過ヲ合圖トシ之ヲ停止スヘシ
- 一 汽車御發着ノ場合ハ通常汽車ナルトキハ乗御ノ際ハ先ツ一般乗客ヲ乗車セシメ御下車ノ際ハ一般乗客ノ下車ヲ停メ御下車ヲ待タシムヘシ但相當ノ距離ヲ保テ雜沓ニ涉ラサル限リハ全ク御通過ナキモ一般乗客ヲ下車セシムヘシ而シテ此場合ニ於テハ警察官ヲシテ其ノ先頭ニ在リ不都合ナキ様注意セシムルヲ要ス
- 一 御停車ノ際御召車ノ前面ヲ一般乗客ヲシテ通行セシムルモ妨ケナシ但御召車ヨリ相當ノ距離ヲ保テ且雜沓ニ涉ラシメサル様注意スヘシ
- 一 プラットホームノ入口ニテ所以上アル場合ハ一方ヲ御通行ニ充テ他ノ一方ヲ一般乗客ノ通行ニ充ツルコトヲ得

地方地
世二年九月廿日受
發第一二七號

世二年九月廿日
發第三八九號

田番

内務省 世二年九月廿日
地甲 九二號 次
明治世二年九月十八日

文書課長
主査

府縣課長

法聖

甲

大臣

次官

北海道課長

警保局長

寄付金募集ニ關スル取扱方ニ付
谷府縣、通牒案

案

發議

從來各種公私ノ企畫ニ關シ之カ寄付金等ノ勸
誘募集ヲ地方官ニ委囑スルモノ其事例少カラ
ス若一之ニ應スルトキハ動モスレハ公私ノ

區分ヲ混淆スルノ弊ヲ生シ易ク延テ公勢上ニ
支障ヲ来スノミナラス自然官廳ノ威信ニモ影
響ヲ及スヘキ幾ト存候右ニ就テハ兼テ御考慮
中ト存候得共各府縣吏ノ取扱ヲ一律ニスルノ
必要有之義ト存候間自今尚一層更應否ヲ慎重
ニセラルヘキハ勿論特別ノ事情ニ依リ不得已
斡旋ノ勞ヲ取ウル、場合ニ於テモ公私ノ區別
ヲ判明ニシ其勸誘募集ノ方法ニ付テモ篤ク注
意ヲ加、前述ノ虞無之様致度尚此旨部下、吏
僚、モ豫メ可然示諭相成度依命此段及通牒矣
也

内務次官

七

各府縣知事
警視總監
北海道廳長官

各省、通牒案

公私各種ノ企畫ニ係ル寄付金等ノ件ニ付地方
廳ノ取扱方ニ關シ別紙ニ通及通牒員ニ付為却
参考寫一通在而回付也

内務次官

各省次官
内閣書記官長
各通

別紙ニ知事ノ通牒寫

明治三十三年二月二十日 祕書課

祕書官

二月二十日

内務省

通牒案

叙勲者具狀期日、義ニ付テ、明治三十四年三月九日丙第百七十四號ヲ以テ及通牒至候次、第モ其之候處往々右期日ニ後々向テ終ニ上奏期日ヲ失テ、不都合ヲ生テ至リ、取取上差支不申候条、兩今右期日ヲ恪守セリ前期ハ三月末日迄後期ハ九月末日迄ニ必ス、庶者ニ是状書到達候由措主ニ成度、万一右期日ニ到達セズニ来テハ、不得已当期叙勲ノ紀念不相成場合モ、可目之候條、為念此段及通牒候也

内務省

祕書官

為、祝總監
海邊庭主
府官也

丙第六十四號
今般勳内則被相定候ニ付叙勳者具狀方之儀
本日訓令相成候處右期限之儀ハ同則第十
九條上奏期日十五日前ニ當省大臣迄具狀相
成候様御取計有之度此段及通牒候也

明治二十五年三月九日

内務大臣秘書官

内務省

明治三十三年三月十九日

土木局長南部

大臣閣覽

次官出原 秘書官北野

系儀委員
地位免
部論入

高等文官ニシテ収用審査會委員

タル者ニ關スル件

右付照會案左ニ相伺

三月廿四日
臨時

九

府縣廳所在地、稅務署長ヲ収用審査會委員ニ充ツル件ヲ付本月十六日官庁秘書第一六二号ヲ以テ出頭存案之旨以テ回答、以テモ之ニ對シ右収用審査會委員ニ充ツル

稅務署長、官氏名承認等ニ對シ至急以テ報ヲ煩ハシ及照會也

内務次官

大藏次官宛

通一各縣廳所在地、高等及タル稅務署長二人以上在後セル場所有之其、其一人ノ官氏名中裁可申及又亦今委員タル稅務署長ニ對シ生シタル場合、於テハ其部及通裁可申及此等中添也

西第二八四号

収用審査會委員ハ土地収用法第三十八條

ノ規定ニ依リ高等文官及府縣名譽殿審
事令多ク各々名ヲ以テ之ニ充テ其高等文
官ニシテ委多クタルニキ者ハ内務大臣之ヲ命
セラルル家ニあり之右委多クハ府縣庶務在
地ノ稅務署長一人府縣參事官一人府
縣土木技師一人ヲ以テ之ニ充テラルルニキ者ハ此
條右土木技師ノ官氏名至多クハ由申相
成存此及照之也

各府縣知事ノ定(仲選あり除ク)
秘書長也

區及土木技師在候中セ其存知事ノ他ノ
府縣高等官ヲ以テ委多クニ充テラルル一ク

此條及之土木技師在候者各々之於以高
官他ノ高等官ノ選定ハ其官氏名由
由中相成存又土木技師二人以上在候
ニ於以、其一人選定相成存此中添
也

参照

明治廿三年三月九日

大臣閣議

次官出札

土木局長 知

中

参与官土木

参事官系

秘事官水野

高等文官ニシテ收用審査會委員タルキ者

タルキ者ニ關スル件

發議

高等文官ニシテ收用審査會委員タルキ者

ハ土地收用法第三十八條第二項ノ規定ニ依リ内

務大臣之ヲ命セラルキ等ニ於テ左ノ破免

ヲ以テ之ニ充テラルキ事ニ決意相成可然哉

府縣参事官 一人

府縣土木技師 一人

但土木技師在職セラル府縣ニ於テハ

他ノ高等文官

府縣府所在地ノ稅務署長一人以上

右稅務署長ヲ以テ委員ニ充ツルニ付テハ左

ヲ以テ一應大藏省ニ照會相成可代字

按

收用審査會委員ハ土地收用法第三十八條

ノ規定ニ依リ高等文官及府縣名譽破免者

トシテ三名ヲ以テ之ニ充テ其高等文官ニシテ

委員タルキ者ハ内務大臣之ヲ命セラルル事

九

有妻者

有之者妻負の存否希事官一人存否未
被附一人並に存縣庭所在地、税務署長一
人少以テ之、先ツ存於テ、高当先組織ヲ得
ヘト被存於右税務署長ヲ以テ妻負
ニ先テ存否ハ別段以テ存否之ヤ折返シ
以四答相承存否及照令也

由初以官

右我以官完

内務省

内務省 北務第四九號

明治三十三年四月六日受
文書課長 四月十日

大臣 卅三年四月六日
官房 第九八号

大臣 卅三年四月六日
官房 第九八号

内務省 卅三年四月九日受
文書課長 四月十七日

明治三十三年三月二日

主査 北海道課長

局長

大臣

次官

庶務課長

参事官

秘書官

中川

石原

歳出豫算施行上ノ件

(発議)

北海道廳財務ノ成績ヲ査スルニ豫算ノ調製ニ重ヲ措カス計畫々々粗漫ニ出ツルノ結果決算ニ至リテハ殆豫算ト其状態ヲ変スルカ如キ觀ヲ顯出セルコト有之

内務省

殊ニ明治三十年度ノ決算ニ於テハ不法不當ノ支出ナリト檢定セラレシモノ六七件ニ達シ其處分方ハ別ニ稟申スル所アリト雖既往ハ逐フヘカラス將來ニ向ヒ監督上嚴密ノ檢束ヲ加フルコト必要ト被存候間先以左案訓令相成可然哉仰 高裁

追テ會計ノ實況監査ハ從來經費・都合等ニ依リ實行ニ至ラサリシモ本文文書ヲ徴スルノミニテハ未タ十分ナラサルニ付本年度ヨリハ少クモ七八月ノ交ニ於テ一回ハ吏負派遣セシメラレ度尚本案御裁決ノ上ハ大藏省へ通牒案更ニ可伺出候

一〇

甲

訓令按

訓第四九號

北海道廳

其ノ廳歳出豫算施行上本大臣ニ稟議又ハ報告ヲ要スル事項ハ別紙ノ通心得ヘシ

右訓令ス

年 月 日
大臣

(別紙)

稟議ヲ要スル事項

一、既定ノ計畫及豫定(豫算ニ明示セルモノ云フ以下同シ)ノ事業ヲ変更スル事

二、豫定工事ノ全部ノ着手前其ノ他ノ工事ニ着手スル事但シ修繕及非常ノ場合ニ於ケル復舊工事ハ此ノ限ニ在ラス

内務省

三、豫定施工区域外ニ存在スル不動産ニ関スル権利ノ獲得ヲ為ス事

四、管外ニ吏員ヲ派遣シ五千圓以上ノ物件ヲ購買セシムル事

五、廳費ヲ除クノ外同種ノ物件ヲ二口以上ニ分テ隨意契約ニ依リ購買スル事

六、一口五百圓以上ノ物件ヲ隨意契約ニ依リ購買又ハ賣拂ノ事

七、廳中需用品ヲ除クノ外當該年度ニ於テ全部ヲ使用セス又ハ加工セサル物件ヲ購買スル事

八、後年度ニ債務ヲ負フヘキ契約締結ノ事

北海道官設鐵道用品資金會計ニ屬スルモノ
ハ前二項ノ限ニ在ラス

九、訴訟ノ取下和解ヲ為シ又ハ訴權ヲ拋棄スル事

報告ヲ要スル事項

報告期

一、豫算ノ施行ニ依ル契約(物件購買及工事
請負契約ヲ除キ)

契約書ノ全文ヲ
報告スヘシ

即報

二、豫定ノ事業ヲ其ノ期日ニ開始セサルモノ、

顛末(戸長役場ノ設置、鐵道營業開始ノ如キ
工事ノ延引ニ因ルモノハ工事遅延ノ次第
モ併テ報告
スヘシ)

即報

三、同一ノ支出事件ニ付會計検査院ヨリ

二回ノ反問アリシ事項(推問答弁各ヲ
添へ報告スヘシ)

即報

四、支出ニ對シ會計検査院ヨリ不法

内務省

不當ノ疑ヲ以テ推問又ハ照會アリタル事項

(関係書類ノ
圖ヲ添付スヘシ)

即報

六、年度開始後二箇月以内ニ豫定ノ事業ニ

着手セサル事項但施行ノ時期ヲ特定シタル

モノハ此ノ限ニ在ラス

五月十五日

七、豫定ノ工事ニシテ年度内ニ竣工セザリシモノ、

顛末

翌年度四月三十日

五、稟議事項第二但書中復舊工事ニ着手シタ

ルモノ、實況及箇所毎ノ工費

即報

如右

明治卅三年四月二十日
大次官

秘書官

案(電報)

三ヶ里 取ノ毛 道(る)ニ
卜次友ノノ 中 海ヶア

四月廿日
旗

岐阜縣知事宛
三重縣知事宛

奉
為
一
一

明治卅三年四月二十日

大
次
官

祕
書
官

案(電報)

三川分流成工式、付テ、可成質
素ク旨トシ儀式ハ勿論宴會等
モ華奢ニ流レ花樣厚ク注意セ
ラルヘシ

大
臣

岐阜縣知事宛
三重縣知事宛

四月廿日
一
一
一

明治三十三年七月十日

大臣

官方長

德旨懸、通牒案

本年暑中賜暇、事務支十、
來月十日、
七便、
決定、
通牒候也

官方長

内務省

廳存外長官充

各官深、
本年暑中賜暇、
義、
各官課事務

差支、
來月十日、
休暇、
先、
及、
知、
也

知事



甲

二



各省
所屬
廳課
長

內務省

裏面白紙

シラナリ、及メタル、竹ノ入

州三七廿
東四三六

四寛

車路々

幹事

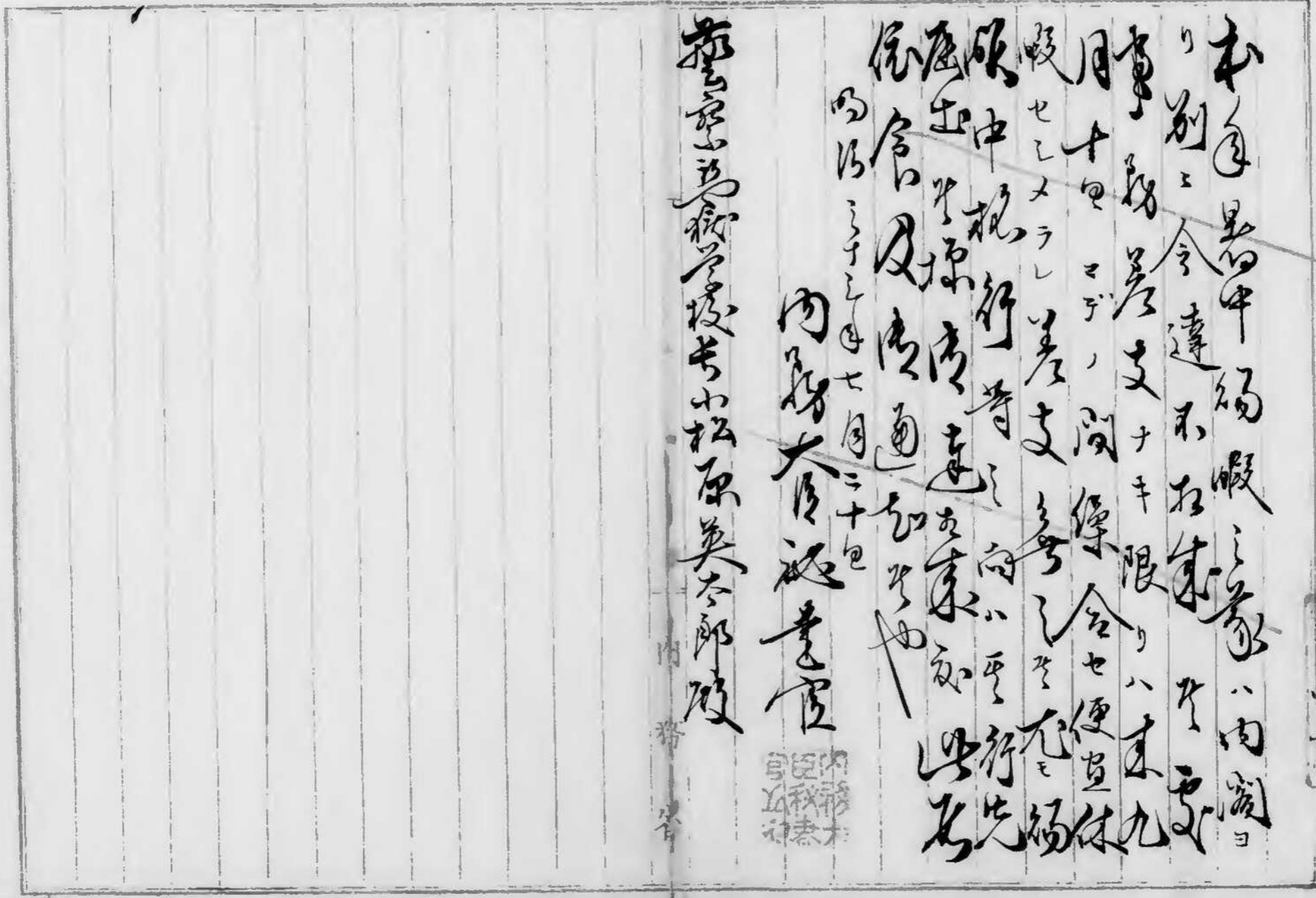
本自是年編暇之家ハ内瀧ヨ
リ別々令達不在成カニ
有テ物差支ナキ限リハ末九
月十日ヨデノ関係令セ便宜体
段セシメラレテ差支多クハ
取中概行等ニ向ハテ行先
底出テ探取等ニ向ハテ行先
依旨及清通知等也

内務大臣 渡邊 武官

内務省
事務次官
渡邊 武官

若宮 武官 渡邊 武官

内務省
事務次官



官坊

考事友集

地方局考

廣係局考

土木局考

衛生局考

宗教局考

神社局考

造部寺前使

總務局

文書部考

禮部考

勸業部考

山海部考

地理部考

七、土木局考

三、衛生局考

二、農商部考

一、海陸部考

包法局考

信託局考

正所局考

廣務部考

内務省

秘牒第六三号

近來政黨、弊漸ク甚ク、往々施テ地方公共
 ノ事業ニ及ビ動モスレハ地方行政ノ公平ヲ失ハ
 ントスルノ虞ナキニアラス且之カ為ニ間ニ官吏ノ
 風紀ヲ維持スルニ困難ノ状況モ有之哉ニ
 相見ヘ最モ注意ヲ要スル次第ニ有之職ニ
 地方ニ在ル者ハ政黨改派ニ偏私スヘカラスハ
 勿論苟モ此ノ如キ疑惑ヲ生セシムルノ行動ハ嚴
 ニ之ヲ慎マシムルコト肝要ノ義ト存候此儀ニ就
 テハ既ニ明治二十二年十二月憲法實施ノ際ニ
 内務大臣ヨリ詳細訓示相成又其後ニ於テ
 屢ニ訓示ノ次第モ有之候ニ付テハ職守
 ヲ忘レ官紀ヲ紊ルカ如キ行動無之様平

内務省

素部下ヲ御監督相成居候ハ勿論ノ儀ト
 ハ存候得共為念此段及通牒候也

明治三十三年九月七日

内務總務長官小松原英太郎

明治三十四年一月十五日

大臣

秘書官

總務長官

官房長

上京伺ニ事々件 追牒奉行
府縣知事、上京伺出ニ際ニ第一縣治上親
シ上申致度アリト、テリテ共用件 並既
由多クハ、之ノ法々旨之為メニ追復ヲ不
得即上申致度アリ、而後上京伺ノ際
詳細理由ヲ以テ、標た案通牒
可出ハ

一七
官房長
第二七 號案

近來單ニ縣治上親シ上申致度アリ旨

ヲ以テ上京伺出ノ向類々有之候處相

來地方長官カ、容易ニ在地方ニ離ルルハ然ラズ

ハキ事項ハ可成書面ニテ上申セラレ 縣治

上ノ要務ニシテ萬一書面ニテ詳悉シ 難

ク自ラ上京ノ必要アリ場合ニ於テハ其用

件及事由ヲ具シ上京ノ義稟請セラレ

ハキ義ト御義知有之度 大臣ノ命ニ依リ

以テ及通牒也

各府縣知事

官房長

(東京 神奈川 千葉 埼玉 除ク)

裏面白紙



二七
上京伺出ノ件

近来單ニ縣治上親シク上申致度ト、旨ヲ以テ
上京伺出ノ向頻々有之候處爾後書面ヲ
以テ盡シ得ヘキ事項ハ可成書面ニテ上申
セラレ縣治上ノ要務ニシテ萬一書面ニテ
詳悉シ難ク自ラ上京ノ必要アル場合ニ
於テハ其用件及事由ヲ具シ上京ノ義
稟請セラレヘキ義ト御兼知有之度大臣ノ
命ニ依リ此段及通牒候也

明治三十四年一月十七日

内務省官房長長谷場純孝

會甲八二号

四月十一日施行

明治三十五年四月八日
大臣

總務長官 **山縣**

主査會計課長 **大谷清**

秘書官

賞與金年度区分件伺

賞與金年度区分ハ彙ニ本者會計局長ヨリ
問合ニ對シ主計局長ノ面答ニ依リ會計
規則ハ二条ヲ五項ニ據リ年度区分ハ或
度ノ交今面大者ヨリ別ニ通者儀
決定シ通條ニ依リ之ヲ行中旨所管
陸通條ニ依リ之ヲ行中旨所管
案

内務省

一八

乙

賞與金年度区分ハ從來會計規則ハ
二条ヲ五ニ依リ区分ハ或度ノ交今面大者ヨリ別ニ通者儀
決定シ通條ニ依リ之ヲ行中旨所管
陸通條ニ依リ之ヲ行中旨所管
案

會計課長

北海道廳長友

岩手縣廳長友

秋田縣廳長友

青森縣廳長友

津生島長

衛生試験所長
 土木監督署長
 痘苗製造所長
 血清製造所長
 付添病研所長
 新築実験場長
 臨時ポスト防務事務長

参照

會計規則第二条 歳出ノ所属年度ハ左ノ区分ニ依ル

第三 俸給并給料旅費ノ類ハ其支給スルキ年度ノ

生シタル時ノ属スルキ年度

第五 前各項ニ掲グルノ類別ニ入ラサシメ費用ハ總テ

仕拂命令ニテ發シタル日ヨリテ年度ノ所属ニ定

内務省

ムブレ

第六一〇号

官費集金年度区分ノ儀ニ関シ明正三
三年十月坤九八三二五ヲ以テ及出四卷
ノ旨、此知モ知ラズルハ、官費集金ノ旨、
シタリモ、ハ、會計規則ヲ二条ヲ三、
依リ又、此ノ旨ヲ、甚セサルモ、ハ、此旨ノ
如ク同条ヲ五、依リ、自交区分ヲ、
ス、キモ、ハ、今般者議決定此条ハ
此旨分、此旨分、此旨分、此旨分、
此旨分、此旨分、此旨分、此旨分、
此旨分、此旨分、此旨分、此旨分、

大臣若主計長七 坂尾芳郎印

内務省
内務省 官費集金年度区分ノ儀ニ関シ明正三

起案属
百第...

内務省廿五年四月十日決 四月十二日 文書課長文書課長 四月十四日

明治卅五年四月十一日 主査 會計課長

大臣

總務長官

秘書官

退官賜金年度區分ノ件

發議

三月三十一日ニ於テ非職滿期トナリタル者ニ支給スル退官賜金年度區分ノ義ニ付大藏省ハ省議及問合候處別紙ノ通回答有之隨テ廢官ノ場合モ同一ノ義ト存候条右ニ省議御決定相成可然乎相伺矣也

退テ御決定ノ上ハ左案各廳、依命通牒可取計矣

案

三月三十一日ニ於テ非職休職ノ滿期及廢官トナリタル者ニ支給スル退官賜金ハ其日ノ属スル年度ヨリ支出ノ事ニ省議決定相成矣条此段依命及通牒矣也

會計課長

總督府民政長官

北海道廳長官

警視總監

府縣知事

土木監督署長

衛生試驗所長

痘苗製造所長

傳染病研究所長

血清藥院長

衛生局長

警察監獄學校長

(各通)

此處ニ所謂三月三十一日於テ廢官トナリタル者トハ四月一日ヨリ官制ヲ改正スル
為三月三十一日ト四月一日トノ分界(分界ト稱シ得ベクシバ)ニ於テ廢官トナリタル
者ヲ指稱スル意ナルヘキモ二十六年勅令百九十八号ノ規定及内閣ノ取扱例ニ於テハ右ノ
如キ場合ハ之ヲ三月三十一日ノ廢官ト謂バスシテ四月一日ノ廢官ト謂フノ例ナルヲ以テ
其例ヲ改メサル限りハ本案通牒ニテハ省議ノ意ヲ傳ヘ難カルヘシ故ニ相當修補セ
ラレタシ

秘書官

内務省

四月九日附課第一〇三号ヲ以テ御照會相成矣退官賜金年
度區分方ノ件右ハ御意見之通ニテ可然存矣此段省議ヲ經
及御回答矣也

明治三十五年四月十日

大藏省主計局長阪谷芳郎

内務省総務局會計課長大谷靖殿

内務省

内務省 卅五年四月九日受 行旅 二月八日
會計課 課 第一〇三号 到 四月九日 大書課長

明治卅五年四月九日 主査諏訪属 (印)

會計課長 (印) 主計掛 (印)

退官賜金年度區分ノ件 發議

右ハ曩ニ非職滿期者ニ給スヘキ退官賜金年度區分ノ
義ニ付山梨縣ヨリノ照會ニ對シ大藏省ヨリ別紙ノ通
回答有之本省ニ於テモ右ニ依リ取扱居ヌ處之ヲ後
年度ヨリ支出スルハ聊カ不穩當ト存ヌ条左案照
會相成可然乎相同矣也

照會案 内務省

三月三十日ニ於テ非職滿期トナルヘキ者ニ給スル退官賜
金年度區分ハ曩ニ二十七年三月山梨縣ノ照會ニ對
スル内回答ノ例ニ依リ後年度ヨリ支出致居ヌ處右ハ
前年度ヨリ支出スヘキ方穩當ト被考ヌニ付尚御省議
承知致度此段及御照會矣也

會計課長 主計局長

六山梨縣照會

廿七年三月廿三日
收才一〇四号

廿四年四月一日ニ於テ非職ヲ命セラレ本年三月末日ニ於テ満期退官トナルヘキ官吏有之ヌ処右ノ者ニ対シ退官賜金ヲ支給スルニハ前后何レノ年度ニ属スル經費ヨリ支弁スヘキ義ニ候哉會計規則第二條第三ニ於テ(俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタルキノ属スル年度)ト規定有之候ヘ共右退官ノ事實ハ前后兩年度ノ境界ニ於テ生シ候義ニ付該規定ニ拠リ難ク取扱上疑義ヲ生シ候

主計局長回答

本年三月末日ヲ終ルニアラサレハ支給スヘキ事實ノ生セサル義ニ付后年度ヨリ支出スヘキモノト存矣

内務省

内務省卅五年四月九日改決 會甲第八二号 判 四月十日 文書課長 四月十日

明治三十五年四月八日 主査 會計課長

大臣

總務長官

秘書官

賞與金年度區分ノ件伺

賞與金年度區分ハ曩ニ本省會計局長ヨリ問合ニ對スル主計局長ノ回答ニ依リ會計規則第二條第五項ニ據リ年度區分相成居矣處今回大藏省ヨリ別紙之通省議決定ノ趣通牒有之矣ニ付其旨所管廳、通牒取計可然乎相伺矣也

案

賞與金年度區分ハ從來會計規則第二條第五ニ依リ區分相成居矣處右ハ辭令ヲ發シタルモノハ會計規則第二條第三ニ依リ亦辭令ヲ發セサルモノハ従前ノ如ク同條第五ニ依リ年度區分ヲ為スヘキモノト省議決定矣此段依命及通牒矣也

會計課長

北海道廳長官

臺灣總督府民政長官

警視總監

府縣知事

衛生局長

係起案屬(訓) 主査 會計課長

衛生試験所長
 土木監督署長
 痘苗製造所長
 血清藥院長
 傳染病研究所長
 警察監獄學校長
 臨時ペスト豫防事務局長官

(参照)

會計規則第二條 歳出ノ所属年度ハ左ノ區分ニ據ル
 第三 俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ
 属スル年度
 第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發
 シタル日ヲ以テ年度ノ所属ヲ定ムヘシ

省

第六一號

賞與金年度區分之儀ニ関シ明治二十三年十月坤第
九八三二號ヲ以テ及内回答置矣次第モ有之候處右ハ
辭令ヲ發シタルモノハ會計規則第二條第三ニ依リ又辭
令ヲ發セサルモノハ從前ノ如ク同條第五ニ依リ年度
區分ヲ為スヘキモノト今般省議決定矣條内承知相成
度此段及内通牒矣也

明治三十五年四月八日

大藏省主計局長阪谷芳郎

内務省總務局會計課長大谷靖殿

内務省

明治三十四年四月三十日

秘書官水野

官房長長島

総務長官大森

（印）

通牒案

東議 妻
欠任命
部編入
五月
格

土地収用法第三十八條第二項ニ依リ府縣収
用審査會妻欠ラ命セラル者ハ他ノ高
等文官ニ轉任シタルトキト雖妻欠ハ消滅
セザル家付内申ニ基キ貴府（部）同會
妻欠ラ命セラル者轉任ノ場合ハ妻欠
ノ補欠者ニ撥定ノ上右轉任者ニ對シテハ
妻欠ラ免セシメタキ旨併セテ内申ハ

家卜承志有之及此及通牒也

官房長

府知事 宛（沖繩ヲ除ク）

参照

乙

明治三十四年四月廿二日

祕書官 水野
南岩倉

大臣

官房長官 長谷場

總務長官 大森

收用審査會委員命免ノ件

發議

府縣收用審査會委員ハ府縣土木技師、司
 稅官各一人及府縣參事官之ヲ命ルル内規
 ニシテ從來其各官ノ他官ニ轉任シタル者ハ
 委員モ亦自然ニ消滅スルノ例ヲ以テ取扱ハ
 此等規定ノ由ク然レ該委員ノ職ハ本人
 カ苟モ高等文官ヲ辭レサル限ハ轉任ニ因リテ
 消滅セザルモノト解釋スル方穩當ナルヲ別ニ或官
 府高等官ノ資格ヲ以テ諸會ノ委員又ハ
 會多ク命セザレタル者ニシテ同一官府内ノ高等
 官ニ轉任シタル場合ハ該委員又ハ會多ク消
 滅セザルモノトシテ取扱ヒ居ル係モ亦之ヲ以テ
 今收用審査會委員タルモノ他官ニ轉任
 シタルキハ該委員ヲ免スル辭令ヲ交付スルニ
 更定相成可然歟

明治三十四年七月廿二日
 第四十號
 第四十七號
 第四十八號
 第四十九號
 第五十號
 第五十一號
 第五十二號
 第五十三號
 第五十四號
 第五十五號
 第五十六號
 第五十七號
 第五十八號
 第五十九號
 第六十號
 第六十一號
 第六十二號
 第六十三號
 第六十四號
 第六十五號
 第六十六號
 第六十七號
 第六十八號
 第六十九號
 第七十號
 第七十一號
 第七十二號
 第七十三號
 第七十四號
 第七十五號
 第七十六號
 第七十七號
 第七十八號
 第七十九號
 第八十號
 第八十一號
 第八十二號
 第八十三號
 第八十四號
 第八十五號
 第八十六號
 第八十七號
 第八十八號
 第八十九號
 第九十號
 第九十一號
 第九十二號
 第九十三號
 第九十四號
 第九十五號
 第九十六號
 第九十七號
 第九十八號
 第九十九號
 第一百號

明治三十四年七月廿二日

大臣

秘書官

總務長官

官房長

參事官

地方局長

警保局長

衛生局長

會計課長

文書課長

秘

二。

大臣ノ命ニ依リ起
案

府縣官吏會同、義ニ付訓令、
件

近時各府縣便宜聯合ニ事務打合或ハ協議會
 講習會等諸種ノ名ヲ藉リ課長或ハ主任者ヲ會
 同セシムルモノアリ現ニ會計事務又ハ衛生事務
 ニ関スル會同ニ於ケルカ如キ持ニ本省吏員ヲモ派
 遣セラレタルノ例モ有之強チ無益ノ業ニアラサルヘキ
 モ一利アルト共ニ弊生シ漫リニ地方限リ會議ヲ
 開キ吏員ヲ出張セシムルニ於テハ之カ為メ經費ニ
 モ關係ヲ来タスヘキノミナラス例年地方長官
 警部長典獄視学官ノ如キ孰モ所管本省ニ
 召集セラル、ヲ以テ事務上ノ打合協議等ニ関シ
 各地方限リ別段ニ課長若クハ主任者ヲ聯合

會同セシムルカ如キハ殆ト其必要アルヲ認メサ
ル所ニ有之旁監督上之カ制限ヲ加ヘラレ然ル
ヘクト思考致候既ニ警部長典獄ノ會同ニ関シ
テハ去ル廿八年六月別紙参照ノ通訓令相成居
候次第モ有之候ニ付之ト同様府縣一般へ左案
ノ通訓令相成可然哉仰高裁

八五六 案

警部長ノ會同ニ関シ明治廿八年六月訓第四五五
號ヲ以テ訓令及置候處自今課長若クハ主任
者ニ就テモ同様他府縣ニ涉リ聯合會同セシ
ムルノ必要アル場合ニ於テハ其理由ヲ詳具シ經
伺ノ上取計ハルヘシ

右訓令ス

年月日

大臣

各府縣知事宛

土五

参照
甲

内務省甲第三号

明治廿八年五月廿五日

施行 六月五日

明治廿八年五月廿五日

主査

監獄課長 柿木原

警務課長 牧野

警保局長 小野田

大臣 靖

次官 毅

参事官

久米 水野

縣治局長

江木 熊谷

府縣課長

矢野

警部長典獄會同、義ニ付御訓令ノ件

議

警部長ニ就テハ明治二十三年総務局長ヨリノ通牒ニ依リ地方長官ニ於テ臨時必要アリト認めタル場合ハ關係地方限リ會同セシメラル、義ニ有之典獄ニ於テハ別段、訓示無之候得共便宜聯合府縣典獄協義會ノ名ヲ付シ會同シ近時ニ於テ最モ頻繁ニ加ヘ經費ニモ敷ナカラサル關係ヲ来シ此終放任スル時ハ随時到ル所ニ會議ヲ開キ之レカ為メ或ハ實務ヲ忽緒ニ付スルノ嫌ナキニ非ス且本省ニ於テ警部長典獄召集セラル、ニ於テハ各地方限リ會同セシムルノ必要ヲ見ズ旁取締上十分制限ヲ加フルノ必要アリト認め候ニ付尔後會同ノ場合ハ詳細其理由ヲ具シ経伺ノ上取計ノ様致度尤モ本件ニ就テハ各地方官モ多少利害ヲ感シ居矣趣ニ付召集ノ節豫メ警保局長ヨリ其内意ヲ確メタル上左案御訓令相成

可然哉仰高裁

按

訓第四五五号

爾今警部長典獄會同ノ必要アル場合ニ於テハ
詳細其理由ヲ具シ經伺ノ上取計ハルベシ

右訓令ス

廿八年六月五日

内務大臣

廳府縣長官知事宛

東京府
ヲ除ク

集治監典獄ヘノ御訓令案

訓第四五五号

爾今典獄會同ノ必要アル場合ニ於テハ詳細其理
由ヲ具シ經伺ノ上取計ハルベシ

右訓令ス

年月日

内務大臣

集治監典獄宛

但北海道
ヲ除ク

参照

秘甲第一〇〇号

明治廿三年十月

(本文畧ス)

各省通
添付

可然哉仰高裁

按

訓第四五五号

爾今警部長典獄會同ノ必要アル場合ニ於テハ
詳細其理由ヲ具シ經伺ノ上取計ハルベシ

右訓令ス

廿八年六月五日

内務大臣

廳府縣長官知事宛 東京府ヲ除ク

集治監典獄ヘノ御訓令案

訓第四五五号

爾今典獄會同ノ必要アル場合ニ於テハ詳細其理
由ヲ具シ經伺ノ上取計ハルベシ

右訓令ス

年月日

内務大臣

集治監典獄宛 但北海道ヲ除ク

参照

秘甲第一〇〇号 明治廿三年十月

(本文畧ス)

各省通牒ニ
添付スル

裏面白紙

本件ニ関シテハ曩ニ地方長官會同之際主任
會議等ハ可成之ヲ為サシメサル旨地方長官ノ
間ニ申合有之候間今改メテ訓令スルノ必要
ナカルヘシ方一他日此ノ如キ會同アリテ不
都合ノ儀ニテモアルニ於テハ其際臨機處
分相成可然ト存候依テ本案ハ再考相成度
候也

地方局

内務省

明治三十四年十一月一日

大臣

秘書官

總務長官
官房長

府縣官吏會同ノ義ニ付別紙ノ通り府縣一般ノ訓令ヲ發セラル、同時ニ第一案ノ通各省ノ通牒相成第二案ノ通り府縣ノ通牒致シ可然哉

第一案

從來府縣聯合ヲ以テ事務打合或ハ協議會等ト稱シ府縣官吏ヲ會同セシムルモノ有之哉ニ相聞ニ候處地方限り便宜聯合官吏ヲ會同セシムルハ其必要ヲ認メサル所ニ有之且之カ為メ吏負ヲ出張セシムルハ經費ニモ關係ヲ来タシ候義ニ付今般別紙ノ通り訓令及ヒ置候ニ付為御參考此段及通牒候也

年月日

大臣

各省大臣宛

(陸海軍大臣ヲ除ク)

第二案

府縣官吏會同ノ義ニ付今般訓第八五六号訓令相成候處地方限り便宜聯合官吏ヲ會同セシムルハ其必要ヲ認メラレサル所ニシテ且之カ為メ吏負ヲ出張セシメラル、ハ經費ニモ關係ヲ来メスヘキニ付

右訓令相成タル次第ニ候條左様御了承相成度
為念此段及御通牒候也

年月日

祕書官

府縣知事宛

明治三十四年九月九日

大臣 秘書官

總務長官

官舎長

官舎長

八三八 通 檄 集

九土

二一

近來普通水利組合並町村組合管理若
先郡長、勸告、對、組合會派、派決ヲ
以テ金田路邊、申込ヲ為シ之カ受領方
シ付虫ル向不敷、邊処、各、郡長カ具
但合、事、如、勸告、之、カ、事、務、極、ニ、速、ニ
總、理、長、官、意、旨、派、決、之、出、入、ト、事、務、極、ニ、速、ニ、

事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、

事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、

事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、

事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、事、務、極、ニ、速、ニ、

府縣知事宛

追テ贈還申込、場、及、派、決、極、力、ノ、結、果、ト、シ、テ
照、會、者、兩、方、同、一、名、義、ヲ、以、テ、事、務、極、ニ、速、ニ、
呈、天、白、任、命、シ、テ、形、式、上、其、夕、極、力、ト、シ、テ、
不、可、成、ル、條、下、自、ラ、其、路、邊、ヲ、受、

カハ陽方ニ能ク代
名多ク等任直ノ
カハ何ヲ為シ
ノ

明治三十四年十月十六日
文書課
第一五五号

次判十月十六日
施行
文書課
長官

明治三十四年十月 日

文書課長 有吉

大臣 為

總務長官 天森

地方局長 縣

會計課長 天岩

警保局長 了直

名府縣知事、通牒案

近年事務、増加ニ伴ヒ旅費、増額ヲ請求セラ
ルル向不尠事情不得已次第ニ付従来詮議、途
相立候限リ増額届相成候處往々災害事変ニ
際シ過當ノ額ヲ要求セラル、コトアリ其実際、必
要ト相應セサルノ支拂アルカ如キコト往々免レサル

哉ノ聞モ有之此等ハ特ニ災害事変、為メ支出
相成候費額ニ付其目的以外ニ使用可相成賜ニ
無之ハ勿論ノ儀、有之且ツ些々タル災害事変、
如キニ際シテハ可成配付定額内ニ於テ差操リ又
并相成候様致度且又目下明年年度旅費額ニ於テ
モ幾分ノ減額ヲ見ル哉モ難計被存候間府縣
高等官等出張ニ際シテハ事務處理、為メ萬不得
已ノ外ハ可成其隨負ノ數ヲ減シ候様被致度其他
常ニ年度内ニ於ケル事務、繁閑ヲ計リ豫メ之ニ適
應スル使用ノ程度ヲ定メ一時ニ過度ノ支出ヲ為
ヌカ如キ事無之様深ク御注意、上可成節約、途
ヲ講セラレ候様致度依命此段及通牒候也

總務長官

甲

二二

北海道廳長官
府縣知事宛

内
務
省

明治三十五年二月十二日

秘書官
敬言係局長

九九 通牒案

○由事務次官降

内務大臣ニ宛テ由英信、電報ニシテ敬言察
事務ニ屬スルモノハ爾今英信官名、上
○ヲ加ヘ且英信官名ハ必ク電報送達紙、
外部ニ現ハシテ標示スルモノトシテ
及通牒係也

秘書官

内務省
府縣長官宛

(由事務次官降)

内務省

二三

三十五
三十四
明治三十五年三月

秘書官

甲

大臣

総務長官
地方局長

府縣参事會員補命方ノ件

發議

府縣制第六十五條第三項ニ依リ府縣高等官ノ
甲ヲ命セラルヘキ府縣参事會員ニ職ノ知事ノ
上申ニ基キテ之ヲ命セラル、例ニ依リ知事ノ指定
ニ當リ書記官及参事官ニ限リ其他ノ高等官及
参事會員ヲ命セラルル例當テ無之ハ字ホスルニ府

二四

縣参事會員ノ書記官及参事官ヲ以テ之ニ
充ツルリ最適當ト認メルニ付自今其他ノ者ニ之ヲ
命セサルコトニ内定相成從テ收回審查會委員ノ
例ト同シク知事上申、年終ヲ為差セシメ西官
更迭ノ都度直ニ之ヲ命セラル、採取計ヒ可然歟
仰裁

方裁上

内務大臣
丙第三〇〇號 通達

府縣制第六十五條ニ依リ府縣高等官ヲ出ワ
ルヘキ府縣参事會員ノ職ニ自今内申
續リ要スル書記官及参事官ニ對シ直ニ之ヲ
命セラルヘキ旨決意相成以テ及通達也

秘書官

長嶋

府縣知事一紀 (沖繩以降)

神奈川兵庫長崎一に在りて是より

進み貴縣知事官に就き、特ニ指定
以内申相成候也

府縣制

中六十五條

府縣に府縣知事官を置き、府縣を

府縣知事官に及名を置、府縣を以

之に組織す

府縣知事官に及名を置、府縣を以

内務大臣之シ命す

知事 記 (沖繩の降)

島原長崎へいたる迄ありけり

貴縣令軍官 就... 物... 指定
申相成夜ハ

府縣... 府縣... 府縣...
府縣... 府縣... 府縣...

府縣... 府縣... 府縣...
府縣... 府縣... 府縣...

府縣...

通... 通...
通... 通...

甲

明治五年六月十九日

大臣

總務長官

秘書官

出

郡區長試験委員長
委員

秘

二五

郡長任用ニ関シ今般郡區長試験委員ニ於テ
病氣退去ノ者又ハ病氣ノ有リテ休職ノ者
ハ六月以上ヲ経過スルニアラハレテ
又事務ノ都合ニ依リ休職ノ者ハ其休職ノ理
由如何ニ依リ輕重ノ區別ヲ立ツルコトニ決リ
定メテ有之候ニ付右ノ如ク左ノ如ク
シテ可然哉

丙第百八十三號

從來郡長任用ニ関シ病氣ニ因リ退官
シタル者又ハ病氣ノ故ヲ以テ休職ノ者セラレ
タル者ヲ退官休職後間モナリ任用ノ
義内申ノ向キ有之候處右病氣ノ
為メ退官ノハ休職ノ者ヲ相当期間
ヲ経過スル任用スルハ甚シク穩當ナラザル
義ニ有之今般郡區長試験委員ニ於
テ右等ノモノハ退官休職後少クモ六
ヶ月以上ヲ経過スルニ非サレハ輕重
ヲ為ササルコトニ決定ノ次第有之以

六五

後六ヶ月以内ニハ内申相成候共従テ採
 用不相成候条左様ニ系知有之度
 其他事務ノ都合ニ依リ体成候事ニ
 及ル者ニ在リテハ其体成ノ理由ヲ調査
 シ事情ノ如何ニ依リ之カ輕衡ヲ為ス
 トニ決定せ候候就テハ是迄平素曠
 政多クシテ若クハ事務ノ実績ヲ察スルカ
 是ニ至リテ全ク不適任等種々ノ理
 由ヲ以テ体成候事ニ及ル者ニ及
 共右体成ノ理由如何ニ依リ事情
 輕衡上否決セラルルハ
 本人ノ利害關係ニ
 シカテハハハキニ付向後体成内申
 際ニ於テハ事實精確調査以上
 内申相成度如何心得有及ハ通
 照不也

秘書官

各府縣知事宛

共右体敵ノ理由如何ニ依リテハ在衛上
不口決セシルヤモ保セラレハ後ニ有リヤ
古ノ次方ニ付テ病氣ニアラサハモニ病氣ノ
理由ヲ付シ又ニ他ノ事情アコモニ瞻取

内務省

若クハ不信任ノ理由ヲ付シテ申立相成
サカ如キハ其人將來ノ身分上尙係不
助ヲ条向ハ体敵ニ付テ申立降ニ於
テハ精確ナル事實ヲ申出スルニ度
為テ心得ル所及ル通達ヤ

年月日

秘書官

各府縣知事宛
沈氏

明治三十五年五月十日付 休成新沼北藩
及郡長白紙通備 崎玉知郡七 轉
任 常 左 女 郡 区 七 試 監 委 多 七 崎
決 之 之 也

本件ハ去二月七日 病氣 故リ 休成原
セラシムル者ナキ 又 郡 七 轉 備 セントスル
不 穩 當 ナ 義 義 七 申 出 ノ 此 分 七
多シ 今 家 限リ 特ニ 控 備 上
出 務 局 七 者 上 決 之 之 也
内 務 省
了 如 村 ノ 如 々 下 等 七 極 細 事 也
ヨリ 各 府 知 内 務 省 存 之 也

山縣 水野 請 命 七 縣

明治三十六年三月十三日

秘書官

内務省
庶務課

丙第一七〇号通牒案

本年前期叙勲の内申ノ期日追々切迫ニ付
目下夫々其調査中ト存及得共毎期内申
中左記ノ事項注ニ誤調アリテ更訂照覆ノ
手数ヲ要スル向アリ又相当期ヲ経過セルモノニ
テ往々調査漏レモアリ今期ニ於テハ豫テ注
意右様ノ義無之程周到ノ以調査ヲ成
為念此及通牒也

秘書官

二六

警視總監、北海道廳長官

府縣知事宛

(茨城三重 愛知 岩手 福岡

五縣ヲ除ク) 五縣ハ已ニ内申書到達済

記

一第一履歷書中

賞罰ノ事項ヲ脱落スルモノ

叙勲内則取扱手續ノ様式ニ依リ詳細記シ
要ス

一年數計算ノ終点ヲ三月三十一日、四月三十日トシ
三十日トスルモノ

五月三十一日迄ヲ計算スヘキモノナリ

一前叙勲発表ノ月ヲ半ケ月ト算シ又ハ全ク算入

セサルモノ

叙勲発表ノ月ハ日數ニ拘ラス一ケ月ト算入

スヘキモノナリ

一第二履歴書ニ職務辞令ヲ省畧スルモノ

第二履歴ハ本人ノ勲勞ヲ認ムヘキ材料ナリ

以テ細大洩サズ記載ヲ要スルコトハ様式ノ末尾

ニ説明セル所ノ如シ

以上

内務省

宗正卿 宗正寺卿 宗正寺丞 宗正寺主簿 宗正寺典簿 宗正寺主簿 宗正寺典簿

内務省 三十二年三月五日 受判 四月四日 文書課長 四月六日

明治卅六年三月廿四日 主查會計課長

大臣

總務長官

參事官

會計年度區分ニ関シ注意ノ件

會計規則第二條第四號ノ年度區分ニ関シテハ曩ニ別紙参照ノ通省議決定セラレ各所管廳へ通牒相成居候へ共各廳決算上會計検査院ヨリ批難ヲ受クルモノ往々有之候ニ付尚ホ将来一層注意ノ為メ左案ヲ以テ通牒相成可然乎相伺候也

二七

案

會計年度區分ニ関シ曩ニ及通牒置候義モ有之候處往々會計検査院ヨリ批難ヲ受クル向モ有之ニ付尚将来左記ノ事項篤ク注意相成度為念此段及通牒候也

内務總務長官

- 台湾總督府 廳府縣 土木監督署
- 衛生試験所 血清藥院 痘苗製造所
- 傳染病研究所 警察監獄學校
- 臨時ペスト豫防事務局

各廳長官宛

(台湾總督府及北海道廳へハ曩ニノ下ニ元拓殖務省ヨリノ文字ヲ加フ)

親展

一會計規則第二條第四號ニ契約ヲ為シタル日ノ
属スル年度トハ其年度内ニ契約ノ履行ヲ終
ルヘキ場合ヲ指シタルモノトス故ニ事故ノ為メ
其年度内ニ契約ノ履行ヲ終ヘサルモノハ假令
會計規則第四十四條ノ整理期限内ト雖モ前
年度經費ノ支出ト為スコトヲ得ス

内務省

廢務局 三十年三月三日

内務省 三十年三月四日受 秘甲第ニ〇号 決判三月八日文書課長閱了 施行三月九日

明治三十年三月三日

主査 會計課長 藤井

廢務局長 大谷

大臣 閱覽済

次官 中村

参事官 久米

窪田

會計年度區分之件

會計ノ年度區分ハ會計規則第二條第四ニ工事
又ハ物件供給ノ契約ヲ締結シタル日ノ屬スル年
度トアリ而シテ會計法第三條ハ各年度ニ於テ
決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬ス
ヘキ經費ニ充ツルヲ得スト制限セルノ外甲年

内務省

度ヨリ乙年度ニ涉ルノ契約ヲ締結シ得ストノ制裁ナシ
且會計規則第四十四條ニ依レハ翌年度六月三十日マテ
ハ前年度所屬經費ノ支出ヲ為シ得ルノ規定ナルヲ
以テ六月三十日マテニ其支出ヲ完了スヘキ工事等ハ
仮令甲年度ヨリ乙年度ニ涉ルノ契約ヲ為スモ法規
上妨ケナク又年度内ニ終ルヘキ工事等ニシテ避ク
ハカラサル事故ノ為メ事業ヲ遅延シ翌年度ニ涉
リ竣工スルモノモ六月三十日マテニ其支出ヲ完了ス
ルモノハ繰越シノ必要ナキヲ以テ前年度ノ支出トシ
整理シ差支ナキモノトス

已上記載ノ解釈ヲ以テ從來処理スルノ省議ナリシ右ハ
法律上ノ問題トシテハ該解釈ニテ何等差支ノ点ナキモ
實際ニ在テハ僅々十日未滿ノ小工事ニシテ甲乙兩年度

ニ涉リ契約ヲ為シタル等ノ実例アリテ右等ハ行政上ノ
處分トシテハ穩當ナラサル義ニ有之且本件ニ関シ
今般別紙ノ通大藏省主計局長ヨリ通牒之趣モ
有之候ニ付左按ヲ以テ心得方各部局、通牒セラレ
可然乎仰高裁

年度内ニ終ルヘキ工事等ニシテ避クヘカラサル事故
ノ為メ事業ヲ遅延シ翌年度ニ涉リ竣工スルモノハ
仮令六月三十日已前ニ在テ其支出ヲ完了スルモノト
虽氏必ス繰越ノ手續ヲ履行セラルヘク又翌年度六
月三十日已前ニ竣工スヘキ工事ト虽氏甲年度ヨリ乙
年度ニ涉ルノ契約ハ締結スヘカラサルトニ省議決定
候条為御心得此段及通牒候也

内務次官

内務省所管

各部長官宛

警視廳 府縣 集治監 東京 宮城 三池
土木監督署 衛生試驗所 血清藥院 痘苗製造所

親展

庶務局
官才三二号

坤第一五四三号

年度繰越之件ニ付明治二十七年三月十三日坤第一
二三号ヲ以テ御回答致置候処會計規則第二條第
四ニ契約ヲ為シタル日ノ属スル年度トハ其年度内
ニ契約ノ履行ヲモ終ルヘキ場合ヲ指シタルモノ
ニシテ履行期日ノ翌年度ニ属スルモノハ該規
定中ニ包含セサルモノト解スル方穩當ナル旨今
般省議決定候条為念此段及通知候也

明治三十年二月十九日

大藏省主計局長松尾臣善

内務省庶務局長大谷靖殿

追テ本解釈ハ将来ノ取扱方ヲ定メタルモノニ有之候為念
此段申添候也

庶務局長問

癸卯三月十六日

土木建築費其他物件購入代價ノ類ハ會計規則
第二條第四ノ明文ニ依リ契約ヲナシタル日ヲ以テ
年度ノ區別ヲナスヘキ義ニ付年度内ニ終ルヘキ工
事等ニシテ避クヘカラサル事故ノ為メニ遅延シ
タルモノト雖_レ氏翌年六月三十日ヲテニ其仕拂ヲ了スル
見込アルモノハ繰越整理セズ全則第四十四條ニ依リ
取扱可然ト思考候へ共一應御省議承知致度候

主計局長答

廿七年三月十三日
坤第一〇二三号

御見込ノ通ニテ可然ト存候

内務省

庶務廿八年十一月七日
秘第六十九号

坤第五五七六号

十一月一日附秘第六十九号御照會ノ儀ハ御意見ノ
通ニテ可然ト存候間此段及御回答候也

明治二十八年十一月七日

大藏省主計局長松尾臣善

局長大谷

課長藤

高覽供ス

内務省庶務局長大谷靖殿

内務省

庶務廿八年十月一日 十月一日決判 十一月二日施行

明治廿八年十一月一日

高橋豊太郎印

庶務局長 大谷

會計課長 藤井

歳出所屬年度區分ノ件

別紙參事官付箋ノ趣有之ニ付左案主計局、照會相成可然哉相伺候也

土木建築費其他物件購入代價ノ類歳出所屬年度ノ區分ハ會計規則第二條第四ノ規定ニ依リ工事又ハ物件供給ノ契約ヲ締結シタル日ノ屬スル年度ノ支出トナスヘキモノニ付年度内ニ完結スヘキ契約ニシテ避クヘカラサル事故ノ為ノ事業ヲ遲延シ乙年度ニ涉リ延期ヲ許シタルモノト雖氏乙年度六月三十日迄ニ其仕拂ヲ了スルモノハ客年三月坤第一〇二三号御回答ニ依リ同則第四十四條ニ依リ甲年度ノ支出トナスハ勿論ニ候也乙年度七月已降ニ涉リ延期ヲ約シタルモノニ對シテモ乙年度六月三十日已前ニ竣功シタル部分ニ對シテ費額ニシテ六月三十日迄ニ其仕拂ヲ了スルモノハ是又第二條第四ノ規定ニ依リ甲年度ノ支出トシ七月已降ニ係ル費額ノミ繰越手續ヲ履行シ可然筋ト思考候へ共一應御省議承知致度此段及照會候也

庶務局長

主計局長宛

追テ本件差掛リタル件有之ニ付速ニ御回答相成度
此段申添候也

内務省

めくれず

廿二

明次三十九年六月八日

大臣為

祕書官

總務長官

官房長官

敬事係馬長

行幸啓ノ節ニ関シ地方長官奉送迎方
心得ノ由

行幸啓ノ節ニ関シ地方長官奉送迎ニ関スル心得方ニ
其時々當大臣甲ノ直ニ地方官ニ達セラルノ例ニ
シテ送迎方一地方官ニ使宜停車場ニ於テ奉送迎
スレト定メ候上ヨ甲府縣ニ於テ其管轄界

二八

秘

○所在

○所在

ニ奉迎シ更ニ内召車ニ陪シ管轄境迄奉送シ
乙府縣ニ於テ全ク當省令奉送ノ通導奉送車ニ
府縣駐在並他ノ停車場ニ於テ奉送迎スル
止ムアリ 敬禮上甲乙一途ニ出ラス右ノ如ク區々
ニ涉リ候テハ敬禮不体裁ニシテ 縦シ當省令ニ於テハ
便宜ノ停車場ニ奉送迎スレト定メラシムル場合
トモモ地方長官先モ其管轄界迄奉送迎
スルカキハ一屬其ノ敬禮ヲ鄭重ニスルカキ以テ
別段不都合アリスレバ 爾今各府縣共
奉送迎方一途ニ出候標古案内刻相
成ル一面別案ノ通リ通牒可然ハ仰
言裁

案

（幸内）
（幸内）
（幸内）

十莖

自今 行幸啓ノ節 地方長官ハ其管轄
界ニ奉迎シ更ニ管轄界迄奉送儀標致
スルハ

但事叙警衛向付ニ從來通り心得可シ

右内訓ス

大臣

道社長官府縣知事 宛

内訓第八四九號 通牒案

十莖

行幸啓ノ節 地方長官奉送儀ニ関シ今
固本首大臣ヨリ内訓相成候處右ノ行幸啓ノ節
地方長官奉送儀ニ至ルニ其時々宮内

大臣ヨリ送付スル例ニ従テ地方官ハ使更ニ
申場ニ於テ奉送儀ニ付テ是等ノ如ク申場
ニ於テ其管轄界迄奉送儀ニ付テ府縣ニ於

テ今宮内右ノ旨通り通牒奉送儀ニ付テ
府縣社寺知事申場ニ於テ奉送儀ニ付テ

此旨アリ甲乙区々ニ海州 隨ハ不詳裁ニ候

爾自今地方長官奉送儀ニ付テ是等ノ如ク申場
大儀奉送儀奉送儀奉送儀奉送儀奉送儀奉送儀

相成度尚 皇太子殿下 行幸儀ノ旨ノ特ニ御
行儀被仰出申儀候ハ今内訓ノ外ト

内訓知申中申儀候候候候候候候候候候候候

総務長官

件裁ラ失ス
今固官内首ノ院
（印）

道廳長官府略事宛

六
五日
齊

大正四年四月廿八日
官内次官八通膠案

○
本省至弓並有
之區、保福橋、由
二付令(四)

行奉陸之部一地方長官奉送近心得方
、仲。別紙之通他洲並通膠改、
本心得心、
若、
後務長官

官内次官宛

自而仍一未之見者之、折送、由田共有之、
由河及通膠者、官内次官宛

内
信
者

明治廿六年十二月四日

秘書官

大臣

總務長官

石 八十四號 田村 稔

官榮中一九四号ヲ以テ行幸格ノ章ヲ奉
送仰ノ義ニ付成内各ノ概ヲ美市
内ニ於テハ内訓ノ外ニ如シ尚去月
廿七日内訓ハ至トシテ地方所在存別
ニ當リ各々セウレタムルノ付貴府ニ於
テハ便宜経来ノ通御心得大成
可成ト存候共取及回答候也

信好七段

東京府知事 宛

自今行幸啓ノ節地方長官ハ其管轄界ニ奉迎シ更ニ管轄界迄奉送候様致サレハ但御警衛向ニ付テハ從來ノ通ト心得

右内訓ス

明治三十六年十月二十七日

内務大臣伯爵桂太郎

裏面白紙

敬書

秘書官

兵庫縣知事

電報

十月廿七
西電

行幸終ノ

為り奉送

迎ニ関スル心

得未ク申

達セバ今

回通達也

ラハ 御事
兵庫知事

陛下御通轎又御臨幸ノ際奉

送迎ニ関スル地方官心得二三月前

ニ御通達アリ之趣官内事

知リ請フ

三十七年十月廿六日午後四時

三十分發

内務

信書友

明治三十六年十一月六日

秋多友

通牒案

青文の
達信

今般兵庫如下 行幸時沿道地方官等
送迎ノ義宮内大臣より通達相成候處右ハ
地方長友以外ノ地方官等奉送迎ニ関ス
ル義ニシテ地方長官ハ奉省内訓ノ通下
御義知取成度御心付迄也及此
用際ノ也

年月日

秋多友

神奈川、静岡、長崎

岐阜、滋賀、京都

大阪、兵庫

右各府知事等宛

内務省

拜啟 命之正所安事大

明命 降在令敏兵庫

下川 幸舟 送道 地方官

奉送 迎之 儀之 謝之 旨

尚都 由事 理長 亦中 越之

越事 細故 承領 於之 先

設置 者方 有之 由招 議之

有之 身地 方長 官之 方之

貴者 亦自 訓之 自是 界

之奉 送之 可及 親之 指之

如得 其由 亦者 有之 及自 達

急奉送迎可成鞠之
如得其南者可及自達
如地方者自以分之地
其封之便也、停車場
奉送迎可成鞠之
之、官位、公、如集
以、如、及、也
昔、

東、西、南、北、

後、自、始、有、紀、也、

大臣
總務長官
秘書長

共
一
三
七



乙

丙第百九十九號
來十一日御發轅ニ付沿道地方官ハ其所在
地便宜ノ停車場ニ於テ奉送迎可有之旨宮
内大臣ヨリ右各府縣知事、及通達小間此
段為御心得及御通牒候也

明治三十六年十一月五日

宮内書記官

内務大臣秘書官

庚申

宮内省

明治四十三年十二月八日

次官
秘書官

第九三六號 函答案

七

岡山縣下行奉_{ニ付}奉送迎方次官
宛電狀伺出未成_リ、_ニ處_ニ宮内大臣
、_ニ達_スハ去_ル三_十六_年十_月兵庫如下行
奉_ニ、_ニ貴_ニ通_ス條_セ、_ニ如_ク地方長官
以外、地方官_ニ、_ニ通_ス達_セラレタルモ
、_ニ訓_ニ、_ニ通_スト_シ、_ニ美_知知_ル成_度、_ニ及_ビ、_ニ回_答、_ス、_ニ也

秘書官

岐阜縣知事宛

電信譯

内務次官 岐阜縣知事

十月八日午前十時五十分發

岡山縣下、行幸ニ付地方官ハ
其所在地便宜ノ傳車場ニテ
奉送迎スルキ旨宮内大臣ヨ
リ達シアリ三十一日十月二十七日
内務大臣内訓ノ主旨ト

内務省

相違セリ右奉送迎方
如何致シ可然哉
シテ乞フ

考考
考考
考考
考考

十
ジ
カ
カ

60 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

キ
フ
カ
カ
カ

裏面白紙

叙勲者具狀期日ノ義ニ付前期ハ三月末日後期ハ
九月末日迄ニ内申相成ル様曩ニ通牒ノ次第モ
有之ル事取調上都合有之ルニ付尔今前期ニ在テハ
二月末日後期ニ在テハ八月末日迄ニ具狀書到達
ル様所措置相成度万一期日ニ到達セサル場合ハ
一切当期ニ組入ル相成ル事ニ決定ス間此段及
通牒也

内務大臣
官房
丙第三八〇號

叙勲者具狀期日ノ義ニ付前期ハ三月末日後期ハ
九月末日迄ニ内申相成ル様曩ニ通牒ノ次第モ
有之ル事取調上都合有之ルニ付尔今前期ニ在テハ
二月末日後期ニ在テハ八月末日迄ニ具狀書到達
ル様所措置相成度万一期日ニ到達セサル場合ハ
一切当期ニ組入ル相成ル事ニ決定ス間此段及
通牒也

追テ内申後身分ノ異動ニ就テハ其都度迅速所報致
又叙勲發表ノ際ニ在テハ電報相成ル様致度為合申
添テ

明治三十七年五月四日

内務大臣秘書官

明治三十八年四月十九日

秘書官

大臣

次官

地方局長

府縣參事會員ノ件

府縣高等官中ヨリ命セラルルキ府縣參事會員ハ從來書記官及參事官各一人ト御決定ノ要今般地方官官制改正ノ結果書記官參事官共ニ廢官ト相成候ニ付尔今事務官ヲ以テ之ニ充テラレ其第一部長タル事務官ハ府縣知事ノ内申ヲ待タズ直ニ御命令相成他一人ハ府縣知事ヲ以テ其他ノ事務官中ヨリ選定之

内務省

三〇

内申セシメ然ル後御命令相成可然年又書記官參事官中廢官ノ即日同一官廳ニ任官セル者ハ二十六年勅令第九十八號(廢官廢廳若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官廳ニ在ル者即日他官ニ任セラルルキハ勤績者トシテ此際辭令ヲ用キ又同委員ノ繼續者ト御決定相成可然年府縣知事ハ通牒案併テ相伺候也

丙三三九通牒案

府縣高等官中ヨリ命セラルルキ府縣參事會員ノ義ニ付三十五年四月四日付丙第三〇〇號ヲ以テ御通牒置候要今般地方官官制改正ノ結果書記官及參事官ハ廢官ト相成候ニ付尔今事務官ヲ以テ之ニ充テラルル事トシ其

地方局長
四月十九日
第七〇號

大臣
官第
三十七
號

第一部長タル事務官ハ御内申ヲ待タス當省ニ
 於テ直ニ命令ヲ發シ他ノ一人ハ貴官ニ於テ其ノ
 他ノ事務官中ヨリ選任御内申ノ事ハ決定
 且（併前同會員ヲ命ゼラレリ）廢官及參事官ニシテ廢官、即日
 同一官廳、任官セル者ハ辭令ヲ用サス同會員
 續（續）ニスル義ト決定相成候間右ニ御了承相成
 度此段及通牒候也

祕書官

府縣知事宛 （沖使縣降ク）

内務省

會
 議
 決
 議

此等事務官ハ御内申ヲ待タズ當省ニ
命令ヲ發シ他ノ一人ハ責官ニ於テ其ノ
任官中ヨリ選任御内申ノ事ハ決定
不書記官及事務官ニシテ廢官即日
任官セル者ハ辭令ヲ用甘不同兼負
此義ト決定相成候間右ニ御了承相成
通牒候也

祕書官

府縣知事宛 (沖使縣降)

内務省

會多任命者
清儀

此項之件ハ如何ナラシム

大臣
次官

秘書長

應分科長及、通務長

(高等官級)

地方及々制改正ニ不日發布セラル、

事ト決定セリ本令ニ連テ内務省

次官
少輔

ハ此項應分科長及、通務長

責成及制全部改正ニ不日發布

セラル、コトトナレリ本令ニ連テ内務省

内務省

地方及々制改正ニ不日發布ニ決定
外、條々及及内務省也

次官

昭和六年一月

四月二十日

三一

四月二十日

四月二十日

裏面白紙

車尔抄
千叶
解馬

車尔抄
千叶
解馬

内
發
書

明治三十八年四月十九日

秘書官

大臣 次官

土木局長

系素、委
免任免、
部二編入

本業、口決
定、且、従前
参事官、命

セラレ、ル、委員
ハ、後、ハ、此、際、之、
免、レ、新、之、者
一、部、七、名、也
務、及、之、命、也

三二

ノ、詳、を、案、ハ
道、山、可、相、伺
也

四月廿五、
梅、川

土地收用審査會委員、命、セ、ル、件

府縣高等官中、命、セ、ル、キ、土地收用審
査會委員、従来、参事官、土木技師、府縣
種、所、在、地、之、稅務、署、長、各、一、人、之、以、命、之、相
成、ル、事、之、以、決、定、之、事、又、今、般、地、方、官、々、制、改、正、ノ
結果、府縣、参事官、廢、官、ト、ナ、リ、土、地、收、用、之、關
ル、事、項、之、第、一、部、之、屬、シ、ル、身、分、今、第、一、部、長

タル、事、務、官、ク、以、テ、之、之、充、テ、之、可、然、乎、又、従、前
ノ、委員、之、シ、テ、廢、官、ノ、即、日、同、一、官、位、ニ、任、官、セ、ル、者
ハ、二、十、七、年、勅、令、第、百、九、十、八、号、ヲ、準、用、シ、繼、續、者
ト、シ、決、定、相、成、可、能、乎、府、縣、知、事、之、道、謀
案、併、テ、相、伺、也

丙、第、三、八、道、謀、案

府縣高等官中、命、セ、ル、キ、土地收用審査
會委員、多ク、命、セ、ル、付、三、十、三、年、三、月、廿、四、日、付、丙、第
二、八、号、ヲ、以、テ、以、照、令、ニ、基、キ、又、今、般、地、方、官
官、制、改、正、ノ、結果、府縣、参事官、廢、官、ト、ナ、リ、相
成、可、能、乎、尔、今、第、一、部、長、タル、事、務、官、以、テ、之
之、充、テ、之、事、務、之、決、定、相、成、可、能、乎、及、之、
相、伺、也

祕書官

存分知事宛 (沖紙取除ク)

(佐野宛に左ノ返書ヲ加フ)

返書書分収用室書之書多ク免タル一キ土木
技師多ク之為メ書記及之書多ク之為メ同書
多ク之為メ書記及之書多ク之為メ同書
宛中添付也

内務省

原本
知事出
張係規
編入

三三

丙第四九五號

管外ニシテ各府廳所在地ヨリ一日内
ニ往復シ得ヘキ隣接地ノ出張ハ
自今伺出ラ要セス但シ其都度
事實ヲ具シ報告セララルヘシ
右訓令ス

明治三十九年六月一日

内務大臣原敬

北海道庁長官宛
存別知事

内務省

明治三十年四月十八日

明治三十年四月十八日

秘書官

大臣

次官

警備局長

地方局長

廳府縣長官へ通牒案

地方官カ各種私設團體ノ囑託ニ應ズルコト

内務省

三四

四月廿

ト付テハ曩ニ明治三十二年九月地甲第九二号ヲ以テ及通牒置付次第モ有之候處殊ニ職務上最モ公平嚴正ヲ要スル中警務局長其他警察官ニシテ各種私設團體等、會負寄附金ノ勧誘募集ニ關係スル如キハ或ハ外間、批難ヲ生シ威信、影響ヲ及スル恐モ有之候ニ付將來警察官ノ職ニ在ル者ニ此等事務ニ干係セシメサル様御取計相成度依命此版及通牒併也

内務次官

警視總監
北海道庁長官
府縣知事

内務省

地甲第九二号

従来各種公私ノ企畫ニ關シ之カ寄附金
 等ノ勸誘募集ヲ地方官ニ委囑スルモノ
 其事例少カラス若一々之ニ應スルトキハ勤
 モスレハ公私ノ區分ヲ混淆スルノ弊ヲ生シ易ク
 延テ公務上ニ支障ヲ来スノミナラス自然官
 廳ノ威信ニモ影響ヲ及スヘキ義ト存ス
 右ニ就テハ兼テ以考慮中ト存スル各
 府縣其ノ取扱ヲ一律ニスルノ必要有之義
 ト存ス間自今尚一層其應答ヲ慎
 重ニセラルヘキハ勿論特別ノ事情ニ依
 リ不得已斡旋ノ旁ヲ取ラン、場合ニ
 於テモ公私ノ區別ヲ判明ニシ其勸誘
 募集ノ方法ニ付テモ篤ク注意ヲ加ヘ前
 述ノ虞々之ヲ標致度尚此旨部下ノ
 吏僚、モ豫メ可然示指未成度依
 察此旨及至遵行也
 明治三十二年九月廿九日

内務次官小杉原英吉印

文部大臣

警視總監

北海道庁長官

宛

内務省 年月日 文書課長

明治四十年四月十六日

警保局長

主査 警務課長

廢案

廢案

廳府縣長官へ通牒按 (東京府ヲ除ク)

從來廳府縣警務長

(警視總監ハノ通牒ニハ廳府縣以下ノ大字ヲ警視廳主事又ハ部長ニ改メ以下皆同シ)

ニシテ私設團體ノ囑托ヲ受ケ其ノ役負タルモノ少ナカラサル趣ニ有之候処近時警察事務愈繁劇ヲ加ヘ殆ント餘カラ存セサルノミナラス

内務省

職務執

警察事務研究ノ目的ヲ以テ

行上ニ於テモ餘事ニ干係ヲ有セサル方外間ノ非難モ無之次第ニ候条警察官ノ職務ヲ以テ組織セラル警察協會ハ格別トシ其ノ他ノ私設團體即チ日本赤十字社武徳會體育會水難救済會海負救済會等一般公衆ヲ團體負ト為スモノニ在テハ其ノ目的如何ニ拘ラズ警察長(權ハ廳長トス以下全シ)ヲシテ此等團體ノ役負タラシメサル様致度既ニ其ノ囑托ヲ受ケタル者ハ此際總テ辭退セシメラレ尚ホ一般警察官吏ニ對シテモ直接間接共ニ此等事業ニ干係セシメサル様御取計相成度尤モ警務長以外ノ事務官ヲシテ右等囑托ヲ受ケシメラレ候義ハ別段差支無之候依余此段及通牒候也

安付四

廢案

甲

秘

警察事務研究
目的ヲ以テ

明治四十年四月十六日
警保局長
主査 警務課長

大臣

次官

廳府縣長官へ通牒按 (東京府ヲ除ク)

從來廳府縣警務長 (警視總監へ通牒ニハ廳府縣以下ノ文字ヲ
ニシテ私設團體ノ囑托ヲ受ケ其ノ役負タルモノ
少ナカラサル趣ニ有之候処近時警察事務愈繁
劇ヲ加ヘ殆ント餘カラ存セサルノミナラス職務執

行上ニ於テモ餘事ニ干係ヲ有セサル方外間ノ非
難モ無シ次第ニ候奈警察官ノ以テ組織
セル警察協會ハ格別トシ其ノ他ノ私設團體即
チ日本赤十字社武徳會體育會亦難救済會
海負救済會等一般公衆ヲ團體負ト為スモ
ノニ在テハ其ノ目的如何ニ拘ラズ警務長 (樺太廳長
ニハ警務課長トス以下全シ) ヲシテ此等團體ノ役負タラシメサル様致度
既ニ其ノ囑托ヲ受ケタル者ハ此際總テ辭退セシ
メラレ尚ホ一般警察官吏ニ対シテモ直接間接共
ニ此等事業ニ干係セシメサル様御取計相成度
尤モ警務長以外ノ事務官ヲシテ右等囑托ヲ
受ケシメラレ候義ハ別段差支無シ候依
命此段及通牒候也

内務省
日受天
月日
日文書課長
行施
月日
要十四

年
月
日

警
保
局
長

門
務
省

明治二十一年十月二十三日

次官官廳

秘書官

郡区試験委員長

委員

通上案



三五

内務省 八八六號

特別任用ノ規定ニ依リ任用セラレタル判
任官ハ是ト銓衡上郡長タルハ廿八
ニ有之ク自今特別任用ノ判任官
トモモ地方事務ニ任歴ヲ有シ適当ト
認メラレタルハ銓衡上郡長タルハ資格アリ
トテ試験委員長ニ任ラレ定ムル事ヲ裁可ス
内務省

秘書官

内務省事務

明治三十八年一月九日

祕書官

通牒案

一三
 銓衡ヲ要スル高等官任用内申書
 履歴書添付方ニ就テハ豫テ及通
 牒候儀モ有之ニ拘ラス近來全ク添
 付無キ向有リ又添付アルモ不足ノ分
 有之取扱上差支ニ為其事務
 滞候場合少カラス候條自今左記
 通牒承知相承為更ニ此般及
 通牒候也

祕書官

各府知事宛

○後ハ警視
 即長ニ即長ヨリ
 警視ニ轉任スル
 類

- 一 新任島司記警視郡長ノ内申ニ一通
 提出ノ下
- 一 島司警視郡長同ニシテ一府縣内ニ於テ
 交互轉任ノ内申ニ一通提出ノ下
- 一 島司警視郡長ニシテ他府縣ニ現官
 轉任又ハ他官ニ轉任内申ニ一通
 提出ノ下警視ヨリ
- 一 新任技術官任用ノ事ニテ

裏面白紙

未行政官ノ物申ニ三三通並学校
卒業証書類ヲ以テ學術上調査
書田二通提出ノ事ト
新橋林料ト云々
經歷

内務省

明治三十年一月九日

大臣

秘書官

各府縣一通陸軍

陸軍省事務長高野等任用、以內申書
・添付多ク、キ履歴書ハ自今左
・通シ集知お成度、以取更ニ及リ通陸
可也

一 郡長ノ内申ニハ、府知事備付ノ履歴書

寫三通陸軍省ノ後提出ノコト但拜命

後提出ニ及ハス

一 技術官ノ内申ニハ、府知事備付ノ履歴

書寫三通並學術ニ関スル証書寫二

通シ提出ノコト但同上

一 技術官ニシテ本省所屬職ヨリ轉任ニ係ル

モノハ履歴書寫並學術ニ関スル証書寫各

一通他官聽ヨリ轉任ニ係ルモノハ各二

通シ提出ノコト但同上

一 典獄島司ノ内申ニハ、府知事備付ノ履

歴書寫三通御提出ノコト但同上

年月日

秘書官

各府縣知事宛

裏面白紙

郡第七五号

郡區長銓衡之係此履歷書ノ件ニ付

法照會之旨有之其處今般別紙

ノ通府縣知事ノ通牒ヲ存付

知有之度此段及回答也

明治廿九年十月十八日

郡區長試驗委員長



內務大臣秘書官

市申

裏面白紙

郡第七十五號

郡區長銓衡ニ要スル履歷書ニ關シテハ去明治廿三年
二月五日及通牒置候處右履歷書ハ必シモ郡區長試驗
手續ニ定メタル書式ニ依リ之ヲ本人ヨリ徵スルヲ要
セス各官廳ニ於テ調製添付セラレ不苦候條此段及通
牒候也

明治二十九年十二月十八日

郡區長試驗委員長松平正直

明治廿九年一月一〇七號 幸り五枚り

明治廿九年十二月四日

秘書官

郡区長試験委員、照会、案

郡区長銓衡係、履曆書ハ廿一年四月ニ
定メニシタシ 郡区長試験手續ノ書式ニ依リ認
メタルモノヲ 徴収係付ニ来リ、又右書式ニ依リト
キ、又ス、其事實ヲ本人、内示シ本人ヨリ提出セ
シメヤルヲ得ザルコトハ 縣地ニ在リハ任用前祕書
ヲ保ツ不能自然他、漏洩シ大ニ不都合ナリ、事
情ナク、却テ同、又、銓衡上取テハ必要、然
シテ、其、此ノ履曆書式ヲ止メ、以後普通同存途
上ノ履曆片ニ及、既、帯、備ノモノヲ用テ、ト、改メ

存存、同、又、意、以、意、人、不、知、改、一、年、此、の、水
照、会、也

秘書官

郡区長試験委員

第

めくれず

明治三十二年四月廿九日

藤原



石 三九五 田部宗

從來恩給若くは隠村ノ者任用不辨仕ノ
場合ハ官吏恩給法施行規則ニ依リテ其支給額
ニ由テ取計一管ノ官任ニ選任少部在少部在
上ノ大系者多選任少部在ナリ一系在少部在任
意ニ由テ指定ニ依リテ選任及由テ在

藤原

藤原宗吉

三八

五七〇

内務省

明治四十二年四月十五日

次官

秘書官

田原繁

三一五

元茨城縣西茨城郡長原百之郎長
在職中恩給ヲ受領シタル件ニ関シ本
月十五日迄令ヲ承右ハ明治三十三
年三月五日茨城縣屬ニ任シタル者
伊藤之助ヲ通知スル中竹助自其者ヨリハ

内務省

通知セザリシモノニ有之尚四十二年四月
ニ至リ西茨城郡長ニ任命ノ通知ヲ受シ
タリハ日月某日貴省在職中令ヨリ高荷
官房秘書課ニ對シハ申越ノ報ニ因
リタル儀ニ有之ハ此由ヲ回ルル也

次官

大藏次官

加三
一四
三五

四七九四

文官恩給受領者元通信屬原百之八明治三十三年三月二十日茨城縣西茨城郡長ニ任セラレシニ拘ハラズ貴省ヨリハ四十一年四月ニ至リ之ヲ通知セラレシニ依リ右支給主管廳ナル東京府ニ於テハ三十三年以降恩給ノ支給ヲ繼續シ来リ為ニ誤拂トナリシ數年分ハ期滿免除ニ屬シ遂ニ國庫ノ損失ニ歸スルニ至レリ如斯任官ニ通知非常ニ遲延セシハ如何ナル次第ニ候哉其理由詳細兼知致度此段及照會候也
明治四十二年四月十五日

大藏次官若槻禮次郎



内務次官法學博士一木喜徳郎殿

追テ今後ハ特ニ注意セラレ恩給若クハ退隱料ヲ受クル者ヲ任用又ハ解任相成候場合ニハ直ニ成規之通知ヲ發セラレ、梯而取計相成度且貴省所管ニ屬スル各廳ハモ右之趣旨而通達相成度此段申添候也

室
四九廿

四十年三月廿八日任東京府知事

阿部 浩

右御通知有之其処置ニ元新浮縣知事ノ肩書ヲ以テ四
十年二月起算、新証発布相成其未夕貴者ヨリ新
浮縣知事任安並ニ退安、御通知無之整理上差支其ニ
付至急御通報相煩ハシ度

其年二月四日休職満期 休職茨城縣無我郡長 原 百 之

右御通知有之其得共未夕貴者ヨリ茨城縣西茨城郡長、任
安、御通報ニ接セズ整理上差支其至急御報告有之
度

甲午年一月七日依願免本官 茨城縣事務官補 五十歳 佐 清

右、右ニ列スル支給主簿廳名並ニ証書番号并報告相成
度

明治四十一年四月廿九日

大藏省理財局



内務大臣官房秘書課

清中

明治四十三年七月二十日

明治四十三年七月二十日

大臣

秘書官

次官

警保局長

通條案

丙 六三四

三九

八十八

囚人刑事被告、押送要親察人及犯
罪嫌疑者、尾行追跡、乾、警部、巡査
ヲ韓國及開奉洲租借地、出張セシム
此場合、認可ヲ得ルヲ要セズ、官限、
命令、本、官、コト、決定、本、案、依
命、本、官、及、通、條、案

内務省

秘書官

警保局長
次官
大臣

明治四十三年七月二十日

裏面白紙

内閣總理大臣侯爵桂 太郎

明治四十三年七月二十日

警察官海外出張に關スル件請議
一通

明治四十三年七月二十日

内閣總理大臣侯爵桂 太郎



内閣

秘 急 甲

警保局長 七月廿八

警務課長

大 臣

秘書官

参事官

警務官更海外出張、引取件等業
引議提出可敷也

業

警務官更海外出張、引取件

警務官更長官、於其判任以下、官吏之引取領土、出
張セシムル、本大臣、恐可ク待ラ之ヲ実行セリト金

近來日韓西帝國、關係密通シ彼我、交通日々盛
クテ頻繁ナル、伴ニ警務事故漸ク多ク四人刑事

被告人、押送、要視人及犯罪嫌疑者、先行追
跡等概、捕、廢存長官、若シ警務部、出者、

韓國、出張セシムル、又喜世、之レアルヲ決ム是
等要急、際、於其時々本大臣、恐可ク待ツ

、於其時、能活ヲ欠キ、時機ヲ失スル、恐レシト
セズ、殊、四人刑事被告人、押送、至リシハ之カ手続

ヲイフル、向、警務官更、留置スルハ已ムヲ得サル
、至ル等人身、拘束スル、重アルヲ以テ、將來、

部、巡查、韓國、出張セシムル、廢存長官、限
テ、更ニ、詳、セシムルコト、為シ、尚、引取、東州、
ノ引取、以テ、警務官更、出張セシムル、場合、

右等、場合、於

引取、東州、
引取、東州、
引取、東州、

引取、東州、
引取、東州、
引取、東州、

引取、東州、
引取、東州、
引取、東州、

四三六九

四七五五

テモ 同様ナラシメントシ望ム依リ茲ニ謝儀ヲ
清フ

年月日

内務大臣

内閣総理大臣宛

内務省

明治四十二年七月八日

秘書官

大臣

次官

警保局長

懲戒処分ニ關スル件

警察署ニ拘禁中ノ警察犯人又ハ
留置中ノ刑事被告人逃走シタ
ルトキハ從來当該署長タル警察視
ニ對シ懲戒処分ヲ加ヘラレタリ

情ノ酌量スルニ先

例ニ有之其處其逃走ニ於ケル看

守巡查ノ取締上ノ不注意ニ起因

セサルハナク署長ニ於テハ固ヨリ

ノ責ヲ免レサルハ勿論ナリト雖モ之

對シ懲戒ヲ加ヘラルハ實際際嚴

酷ニ失スルノ嫌可ク其失態ノ被

候ニ付爾今特ニ其失態ノ甚

シキモノト認メラルモシ

懲戒ノ範圍外トシ

ニ止ムルコトニ決定セラレ

右仰裁

大臣 四年七月十六日 警保局長 第五一五号 局保 四七六

八十六

丙 六七五 通條案

中

於察察之拘禁申又為置考ハ押
 送途中、於ケル 申 刑事 報告
 人逃去スルトキハ 申 署長タル 申
 視、對シ 懲戒處分ヲ加ヘラル、先例
 三有之、且 處見 逃走ニ於ケル 者守 申
 查、取 偏不注之ニ 因セザルハナリ 署
 長ニ 託シ 因リ 此 對シ 奏ヲ 宛カレシ
 ルハ 勿 務ナリト 申モ之 對シ 懲戒處分
 ヲ加フルハ 宜 際 嚴 融ニ 失ルヲ 以テ 今
 且 事情 因 後ニ 八キモト 認マラル、 抄下ハ
 初 告ニ 止ルハ 三トニ 決定スルハ 案 内 心
 得トシ 申及 通 條 案

内務省

秘是也

北海是之屬也
 亦ハ 秘 是 也
 有 秘 是 也

(東京府除ク)

明治四十三年十月九日

大臣了

秘書官

甲

第百八十六號

北海道廳長官及若府縣知事へ
通牒案

十月十日

四一

明治四十三年度に於て官吏に増俸ヲ為スルニ主
意ニテ豫算案調査ノコトニ内定ニ成ルニ存テ
「地方支支費ノ多寡ニ對シテモ權衡上相宜
増俸ヲ爲スルハ必要ナル有之ル兵國庫豫算

「耳者ニ至ラレハ確定不致隨テ施行時期
ノ如キモ決定不致ハ地方支支費ノ
多寡ニ對シテ「通牒」及「
地方支支費ノ多寡ニ對シテ「通牒」及「
地方支支費ノ多寡ニ對シテ「通牒」及「
地方支支費ノ多寡ニ對シテ「通牒」及「

年月日

冷官

未

一二三同合ノ向ニ有之ルニ付テ

八月廿五日
併送

明治四十二年八月廿四日

大臣 齋藤

秘書官 西

次官 辻

秘 必 親 筆

道 廳 長 官 及 各 府 知 事 へ 内 牒 按

坊 主 拜 受 抄 本
茨 城 中 傳 抄 降 下
口 記 三 枚 二 枚

拜 啓 今 般 官 吏 増 俸 行 上 同 時 行 政 整
理 行 施 行 方 針 決 定 其 結 果 上 下
技 師 技 手 属 警 部 等 於 現 在 減 少 要
求 場 合 有 之 候 付 今 後 貴 廳 於 此 等
右 等 官 吏 欠 負 亦 生 優 節 八 万 止 得

内 務 省

廿 八 日 予 除 夕 外 補 充 不 相 成 様 致 夜 日
右 貴 官 傳 令 迄 及 内 牒 置 又 敬 具

次 官

めくれず

大正九年十月十日

秘書官

自修案

一五九

農商務省 所布ノ臨時治水事業
費目ノ由申立書ニ以テ入去ル事
免、請依、増減ハ申立、場合ハ其
及至直修也

内務省

秘書官

府知事宛

明治四十五年四月六日

大臣

秘書官

次官

事務官

地方高等官、叙位、従来依り所屬
長官、申立テ換テ上奏セラル、コト、
右中略、テ新任及官等陞叙、
依り叙位セラル、坊余ハ當省ニ於テ直
ニ上奏ヲナシテ所屬長官、申立テ省長
スルマト、本年ハ有テ自ラ叙進條

四五

之

正者
三二九
自

従来叙位進階内別ニ依り高等官
(待遇官ヲ除キ)叙位ノ儀、内中相殿、
内新任及官等陞叙ニ依り叙位セラル、
坊余ハ内中申立テ當省ハコトニ決
定テ自ラ叙進條及通階ノ
年月ハ
秘書官

警視總監
北海道廳長官
府縣知事

在高等官に別々待遇官職
に在る者(内務大臣に属する者ヲ除ク)
其待遇官に對し叙位セラレタル者ハ直
ニ公報者トシテ其如キ事

内務省

裏面あり

元入共
二〇

大正元年八月十五日
明治三十五年六月十五日

大臣

秘書官

次官

警保局長

甲

懲戒処分ニ関スル件

裁議

四六

警察署ニ拘禁又ハ留置中ノ囚人
刑事被告人等逃走シトキ署長等
前記ニ對シ懲戒処分ニ付署長等
別紙
ノ通決定ノ旨通牒ヲ交 緘死ニ關
シテモ同様ノ義ト被考ル付更ニ
左景通牒ト出シ仰裁

内務省

八月廿四日

警察署

警察署ニ拘禁又ハ留置中ノ
囚人刑事被告人等緘死シタルト
キ當該署署長ノ懲視ニ對スル
懲戒処分方ニ付内務省
八月丙第六七五號通牒同様
其ノ旨情憫諒スルモノト認メラル
場合ハ訓告ニ止ムコトニ決定ス
本條及通牒也

年月日

手紙
田中
様

秘書長

警視總監

北海道廳長官宛

府縣知事

(東京府ヲ除ク)

内務省

明治四十二年七月八日

秘書官 （署名）

大臣 齋藤

逕達

新橋長 （署名）

（署名）

懲戒處分：閉口件

祭議

新橋長等：拘禁又ハ為重中 若シハ押送途
中ニ於ケル因テ 刑ヲ被テ人トシテ去リタル
トキハ 従来モ 後出長タル 爲 視ニ對シ
懲戒 交分ヲ加ヘラレ、一先例ニ依リ

ルニ 其逃去ニ於テ 看守巡査ノ取
締上ノ不注意ニ 起因セサルハ ナリ 署
長ニ於テハ 固ヨリ 監督上ノ 責ヲ免
レサルハ 勿論ナリト 雖モ 之ニ 對シ 懲
戒ヲ加クニハ 實際 嚴酷ニ 失スル
ノ 嫌 可ナク、其ニ 被考者ニ 對シ 何等
其事 情 憫 諒 スル 事 無ク ト 認メ ラル
場合ハ 總テ 訓告ニ 止ムルコトニ 決
定セシメ 可然ナリ

裁

右仰

警察署ニ拘禁又ハ留置中若クハ押送途中ニ於ケル囚人刑事事被告
人逃走シタルトキハ當該署長タル
警視ニ對シ懲戒處分ヲ加ハラル
先例ニ有之候處其逃走ニ於ケ
ル看守巡查ノ取締不注意ニ起因
セサルハナク署長ニ於テ固ヨリ監督
上ノ責ヲ免カレサルハ勿論ナリト雖モ
之ニ對シ懲戒處分ヲ加アルハ實際
嚴酷ニ失スルヲ以テ今其事情
憫諒スハキモノト認メラル、場合ハ
訓告ニ止ムルコトニ決定相成候條

御心得迄此段及通牒候也
明治四十二年八月十八日

秘書官

北海道廳長官
警視總監
府縣知事

(東京府除ノ)

大正三年一月二十九日

秘書官

次官

葉 (秘親展)

次官名

府縣知事宛

大正三年一月二十九日
三十一日
長官宛
二日三十一日
抄り
(五三)

四七

議、所會同、除首相より開示相成共通
来年度に於て、行政財政、整理、結果、
依り豫算ヲ執行可被改答、有之尤也

内務省

減少額、未分確定不致共、府縣別任
官定員、少クとも五分以上減少可被致也
間右より知、上可被少處理相成度、内心得
迄、秋段中進候

大正二年七月十六日

大臣

次官

秘書官

五十五號 通條案

従前、府縣事務官補三人中一人、
普通任用資格の有る者より任用
ノ儀、明治四十三年三月三十日及通條直
ノ地方官之制、改正ノ條、右、通條

四七三

ハ引ル所減シテ、係、各官制ノ三條
ノ理事官ノ推薦、場合、事務官補
ノ例ニ依リ、一人ハ有資格者ヨリ、選定
ナリ、又、若シ、其ノ事務官補アリテ
三、人、若、特別任用ニ依リ、必要者之
ノ、事務官補、由、詳細、以、申出、事、由、信、命
等、及、通條、名

年月日。

次官
秘書官

府縣事務官

又

従前事務定補五人中又普通任用
用資格有スル者ヲ任用、儀昭法
四十三年三月三十日及通條置及定官制
改正、結果左通條ハ可外消滅スル
係、又其官制亦一條亦二條、理事官
ハ推薦、場合ハ事務官補、例、例、一
人ハ有資格者申有、送定去成方若

レ已台ハ事柄了リテ五人共特別任
用、例、必要有之ヲ其事由詳細
以申出スル及依命封及及通條ハ
年月ハ

次官

北海道庁長官

大正二年九月廿三日

秘書官

次官

ハ一。通條案

文官任用令第六條第三號、專門學校卒業、及口知七號、在任員、職、因之、同令、對之、專門學校別科、卒業、者ハ、右第三號ニ該當シ又第七號、在任員ハ、同任用令第六條ノ在任員ト同一ニシテ官廳ノ在任員ト謂ヒ國ノ在任員トシテ國ノ事務ニ從事スル者ヲ指シ必スシモ國費ヲ以テ該科ヲ支辨シタルモノニ限ラサル義ニ有之旨由内書記官ヨリ四等官之_レ並列為_レ標準及_レ色別也

六條ノ在任員ト同一ニシテ官廳ノ在任員ト謂ヒ國ノ在任員トシテ國ノ事務ニ從事スル者ヲ指シ必スシモ國費ヲ以テ該科ヲ支辨シタルモノニ限ラサル義ニ有之旨由内書記官ヨリ四等官之_レ並列為_レ標準及_レ色別也

朝鮮總督秘書官
吉澤所屬事務官
北條事務官
揮大ニ能長官

秘書官

内四九一

大正二年九月二十三日

内閣書記官



内務大臣秘書官御中

回答

客月二十日附テ以テ文官任用令第六
 條ニ付照會ノ趣了承専門學校別
 科卒業ノ者ハ右第三號ニ該當シ又
 第七號ノ雇負ハ旧任用令第六條ノ
 雇負ト同一ニシテ官廳ノ雇負ヲ謂ヒ
 國ノ雇負トシテ國ノ事務ニ従事スル者
 ヲ指シ必スシモ國費ヲ以テ給料ヲ支辨
 シタルモノニ限ラサル義ニ有之候

乙未年八月十九日

秘書長

六六九

中業



文友任用令第六條が如きノ學校卒業生ニハ別科卒業ノ者ハ包含之
同條が七号ノ在るニハ^{初級費}地方費支
辨ノ音息ヲ包含之義ト思ふル
所為否否ハ未定ニ為知致謝状
及^ハ仰令スル也

山岡正仁左記

秘書長

社第 一四七

大正二年八月九日

大内省知事 大久保利武



内務大臣秘書官

御中

昭会

文官任用令意新件

今般文官任用令改定其令其意新件、
兼在及御問合其意新件以回示其状、及
矣也

第一 文官任用令第三條、其科卒業生を包含

スハ義ニ及ス

第二 同条第六條、勸導者ニ限ラザル也

第三 同条第七條、勸導者ニ限ラザル也又府縣費より多雇
或ハ其他種々名稱ヲ付シタル府縣吏員(判任付内)モ
包含スル義ナシ也

七三八

大正三年四月廿二日

甲

大臣

秘書官

次官

五月三〇七

秘密

案

地方行政ノ刷新官紀ノ振奮時弊ノ匡救其他人心ヲ一新シ社會ノ氣風ヲ振作スルハ今日ノ急務ト認メラレ共ニ是等施設ニ着手由改善

四八

ノ方策ニ関シテ意見有之ナリト
来五月十日迄^{到達迄}提出セ成テ依
命出ル^ト也

次官

北河通任先左
存和知事
給子規治監
梅石研吉長

大正三年七月三日

大正三年七月三日

秘書官



七月廿六日

内務省
官制第五七三號

通陸東

高等官官等陞叙ノ儀日申立ノ
節ハ大書式ニ依リ右官若別ニ
出立ルル者及通陸東也

年月日

秘書官

四九

新設地位
攝大廳長
北海廳長
府知事

陞等	起算ノ日	官位	氏名
何等	何年何月何日	何官	何氏何某

大正四年六月廿五日

秘書官

通奉案

年月日

秘書官

北海支庁道廳長官

府樺太道廳長官

府樺太道廳長官

宛各通

八五

通牒

叙勲内申後身分、異動之付予
 叙勲内別取扱手續知悉、準授
 其都交連之却報告知可也、準授
 供交連之異動通知、有特之内
 申後叙位、歩シタル、如キ表後、
 於テ勲記ノ訂正ヲ請ハル、カラサレ、
 官ヲ来ス、揚合モ有之、於キ、
 叙勲ハ勿論、叙位内申後異動、
 申ハズ、遺漏、幸採、直ニ、
 申後、
 又近來、進退上ノ内申、特ニ叙位叙
 勲、恩給、等、関シ、生々、氏名、文字、正
 確ヲ、缺中、或ハ、戸籍、面下、相違、
 為ニ



大正四年十月十七日

秘書官
警保局長

大臣
次官

通牒案

次官

廳府縣長官宛

行幸時、際沿道御警備、為官廳列車、
便乘、件依命通牒

五二

十六

丙第九三八號

天皇陛下 皇后陛下各地、行幸時在りせらるる場合
に際し、従来沿道過地方管轄、地方長官及警
察部長、沿道御警備、為、其管轄境界に
最、近キ御停車驛より後、管轄境界に接近
せらるる際、御停車驛迄、間、限り、便近官國列
車、に便乗せらるるに、許され、乘り、形、知、往、り、管

轄境界、遠中地点、送使乗奉迎送迄
 等右ノ範圍ヲ超越シタル區間ニ涉リ使來
 事例ニ有之ヲ裁、趣キテ以テ
 其向方ノ注意、次第ニ有之ヲ付送送即
 警束向ニ付テ隣接府縣ト協議ニ上聯
 次リ保持シ得ル程度ニ於テ使來セラル
 限リ必要ノ範圍ヲ超越セラルル事
 無之様申留意ナク亦依命此段特ニ
 申進也

十文
 通使乘奉迎送

次 官

三重、海井、石川、等、宛、奉、迎、送、

行幸啓、際奉迎送、仲依命通陳

天皇陛下 皇后陛下 行幸啓、為ノ

名大石驛即
 奉迎送ニ
 奉迎送ニ

大正六年八月七日

秘書官 印

大臣 印

内務省

内務省訓第四二二号

訓令 案

明治三十九年六月丙第百四九五號訓

令中「隣接地ノ出張ハ」ヲ「隣

接地ノ出張又ハ宿泊ヲ為サス

一日内ニ帰廳スハキ隣接

地外出張ノ場合ニ限リニ改ム

年

大臣

廳存縣長官 宛

理由

現在訓令ハ管外ヨリ一日内ニ往復シ得ヘキ
隣接地ノ出張ニ限リ宿泊ノ如何ヲ問ハ
ズ同出ヲ要セズ此ノ場合ト同シク
隣接地外ニ涉ルモ一日内ニ往復シ

八十三
九九

得_レキ地ニシテ宿泊セサルトキニ限り伺
出ヲ要セサルコトニ決定セラレ不都合
ナレト認ム

階接地ト否トヲ得_レハ一日内ニ往復シ得
ハカラサル地又ハ隣接地外ニシテ一日内ニ
往復シ得_レキモ宿泊ヲ為スルハ場合
ニ於テハ伺出ヲ要スルハ勿論トス

雜 五一九

通牒書

八五

本年六月廿八日秘第三六二号 兵部用件ヲ以テ
福宮殿下ニ出度ニ関スル件 伺出ヲ為
スルハ_レ由_レニ訓カレ_レ一_レ号_レ 後方セキ
ル場合ニ於テハ伺出ヲ為スルハ追々
伺 船便ノ都合ニ依リ 福宮殿下_レ由_レ
件 認可_レ 由_レ 其_レ及_レ 通牒_レ 也

秘第 〆

長崎分府事務了訖

隣接地ノ出
張又ハ宿泊
ヲ為サス一日
由ニ歸應スキ
隣接地外出
張ノ場合ニ
限リ

丙第四九五號

管外ニシテ

廳所在地ヨリ一日内

ニ往復シ得ヘキ隣接地ノ出張ハ

自今伺出ヲ要セス但シ其都度

右訓令ス

明治三十九年六月一日

内務大臣原敬

内務省

事務 三十一之 拜

大正六年六月廿八日

長崎縣知事 島田剛太郎



内務大臣男爵後藤新平殿

出張ニ関スル件伺

兵事用件ヲ以テ久留米第十八師團及小倉第十二師團等へ出張ノ節ハ明治三十九年六月丙辰第四五號訓令ニ基キ其ノ時々伺出御許可ヲ得居候處右出張ニ就テハ宿泊ノ如何ヲ問ハス自今伺出ヲ要セス其ノ都度事實ヲ具シ報告ノ事ニ特別御認可相成度候

六七二
五九

裏面あり

追テ縣下壹岐對馬へ出張ノ際船便ノ都合ニ
依リ福岡縣ヲ經由スル場合ニ本支ノ通
報ノ事ニ係リ認可相仰度申添候

西第四九五號

管外ニシテ縣道奇徳所在地ヨリ一日内ニ

往復シ得ハキ隣接地ノ出張ハ

自今伺出テ要セズ但シ其都度事

實ヲ具シ報告セラルヘシ

右訓令ニ

明治三十九年六月一日

内務大臣原敬

北海道庁事務官 宛

第一師團

(東京)

東京府

(赤坂區青山南町)

麹町區有樂町

横濱市本町

北足立郡浦和町

千葉郡千葉町

甲府市錦町

神奈川縣

埼玉縣

千葉縣

山梨縣

第二師團

(仙臺)

宮城縣

(仙台市川内大橋通)

仙台市勾當台通

福島市字杉妻町

山形市旅籠町

福島縣

山形縣

第三師團

(名古屋市中區南外堀町)

津市中津屋町

岐阜市司町

名古屋市中區新字所

三重縣

岐阜縣

愛知縣

第四師團

(大阪)

大阪府

(大阪市東區馬場町)

大阪市西區江ノ子島上町

神戸市山手通

和歌山市西區江町

兵庫縣

和歌山縣

第五師團

(廣島)

廣島縣

(廣島市基町)

廣島市水主町

青森郡山口町

山口縣

米愛媛縣

松山市大字一番町

第六師團

(熊本市本丸町)

(熊本)

熊本縣

熊本市新南千反町

宮崎縣

宮崎市宮崎町

鹿兒島縣

鹿兒島市山下町

米沖繩縣

那霸區西本町

九時間三十分

○

第七師團

(北海道旭川道)

(旭川)

北海道廳

札幌區北三條西五丁目

第八師團

(弘前市富田町)

岩手縣

盛岡市內丸

(弘前)

青森縣

青森市大字大野

秋田縣

秋田市土手長町

第九師團

(金澤市旧城内)

X 岐阜縣

岐阜市司町

福井縣

福井市佐佳枝上町

(金澤)

石川縣

金澤市廣坂通

富山縣

富山市徳田橋

第十師團

(姫路市本町)

(姫路)

兵庫縣

兵庫市山手通

京都府

上京區下立賣通

福井縣

福井市佐佳枝上町

鳥取縣

鳥取市東町

八時間

岡山縣
*香川縣

岡山市 大字 石関町
高松市 内町

第十一師團

(香川縣仲多度郡善通寺町)

德島縣

德島市 寺島町

(善通寺)

香川縣

高松市 内町

*高知縣

高知市 帶屋町

第十二師團

(小倉市田城内)

長崎縣

長崎市 外浦町

山口縣

吉敷郡 山口町

(小倉)

福岡縣

福岡市 天神町

大分縣

大分市 荷揚町

佐賀縣

佐賀市 幸松町

熊本縣

熊本市 新南千支知町

X 宮崎縣

宮崎郡 宮崎町

第十三師團

(高田市)

(高田) 新潟縣

新潟市 東中通一番町

長野縣

長野市 妻科

第十四師團

(栃木縣河内郡國本村)

埼玉縣

北足立郡 浦和町

群馬縣

前橋市 曲輪町

茨城縣

水戸市 上北三ノ丸

(宇都宮)

栃木縣

宇都宮市 塙田町

第十五師團

豊橋

(愛知縣渥美郡高師村)

愛知縣

名古屋市中区新栄町

静岡縣

静岡市追手町

岐阜縣

岐阜市目町

長野縣

長野市妻科

十一時間二分

第十六師團

京都

(京都府乙伊郡深草村)

京都府

京都市上京区

奈良縣

奈良市堂大路町

三重縣

津市中差屋町

滋賀縣

大津市東浦

福井縣

福井市佐佐木町

二時間三十分

五時間四十九分

第十七師團

(岡山縣津田郡伊高村)

鳥取縣

鳥取市東町

島根縣

松江市殿町

岡山縣

岡山市大字石関町

廣島縣

廣島市水主町

愛媛縣

松山市大字一番町

0

第十八師團

(福岡縣三井郡國分村)

長崎縣

長崎市外浦町

福岡縣

福岡市天神町

佐賀縣

佐賀市赤松町

熊本縣

熊本市中央区友畑町

七時間四十七分

内務省訓第四一號

明治三十九年六月丙第四九五號訓令中「隣接地、出張ハ、隣接地、出張又ハ宿泊ヲ爲サス一日内ニ歸廳スヘキ隣接地外出出張、場合ニ限リ」ニ改ム

大正六年八月十三日

内務大臣男爵後藤新平

大正十一年六月十日

秘書長

少子

第二七七

区隊長

今面貴方理事員一名増員

理事員一名任命相成候處右ハ社会

事業ニ関スル事務ニ従事セシムル為

増員ニ有之ハ第右ノ如キ

知事ハ其ノ相成度ニ依リテ

内務省

五八

秘書長

東京府知事

京都府知事

大阪府知事

神奈川府知事

兵庫府知事

愛知府知事

静岡府知事

長野府知事

相模府知事

前原敏捷

加藤武夫

中村忠光

大島忠信

足立収

船岡中

松村光磨

三樹三

新川貞忠

大正五年四月廿八

四七〇
秘書官

通知案

山口縣	福岡縣	廣島縣	兵庫縣	京都府	滋賀縣	愛知縣	神奈川縣
							靜岡縣

知事宛

100

聯合國經濟會議特派委員長以下一行八
 來、五月一日午前八時三十分東京發下、
 直行、同日午前十時十分、下關發、
 山、着、朝鮮、經、渡、歐、
 付、乃、全、及、通、知、候、也、

四七一
又案

秘書官

朝鮮總督府事務官宛

聯合國經濟會議特派委員長以下一行八、來、五月
 一日東京出發、同日午前九時四十分、山、着、同日
 午後十一時、山、發、同日午前八時五十分、
 同日午前七時十分、京、城、苑、奉、天、以、經、
 行、渡、歐、

秘

聯合國經濟會議特派委員長以下一行旅程

東京	下關	釜山	京城	奉天	長春
發著	發著	發著	發著	發著	發著
同	同	同	同	同	同
五月一日(月)	二日(日)	三日(水)	四日(木)	五日(金)	五日(金)
午前八時三十分	午前九時三十分	午後九時四十分	午前八時五十分	午後十一時五十分	午前九時十分

裏面白紙

十月廿日施行

大正十三年十月十六日

次官 秘書官

十八

二二八七

案

皇太子殿下御巡遊日誌
別冊官邸大官房庶務課係貴廳及貴管内各
郡市役所、夫々一部宛御配付相成
度候

一三

年月日 秘書官

内務省

北海道廳長官宛
各府縣知事宛

裏面白紙

白子殿下海外巡遊日誌 六七九部
右今回當課ニ於テ印行作ニ付申手教別紙
由譯、依リ丈々御配付相煩度

大正十三年十月十五。

宮内大臣官房庶務課



内務大臣官房秘書課

中

宮内省

裏面白紙

内詳

各道般所 四七

右市役所 九二

右郡役所 五〇

計 六七九

部外不足付三十一部追加

計 七〇九

皇太子殿下海外巡遊日誌 三〇部

由次

市橋町	二
島	八
世田谷市橋町	六
日 橋 町	一

右ノ如ク記付相次度候

大正十三年十月十日

皇太子御所御筆

内務大臣官房秘書課

裏面白紙

裏面白紙

内務省

大正十三年十二月廿四日

内務省
大正十三年
十二月廿四日
記

十一
廿六

秘書官

客月廿四日十三官收第七二三号ニテ以テ
御申出相成候 白王太子殿下海外御
巡遊日誌一部今回宮内省庶務課ヨ
リ配與相成候ニ付別冊及送付候條
可然御措置相成度候

年月日

秘書官

埼玉縣知事宛



四・三號

大正三十一年十一月廿一日

宮内大臣官房 庶務課

内務大臣官房 秘書課

回 答 仰 中



十月廿九日附仰申越ノ皇太子殿下海外御巡遊日誌管部御送附申上取
聞可然仰取計煩度

宮内省

裏面白紙

裏面白紙

内務省

大正十三年十月廿七日

秘書官

十月十九日
施行

内務大臣官房庶務課
丙第 一三四九號

皇太子殿下海外御巡遊日誌

右ハ御申越ノ通本月廿日夫々配付致

候處今回埒玉縣知事ヨリ別紙ノ通

申出有之候條更ニ一部御

成度此段及依頼候也

年月日 祕書課

宮内大臣官房庶務課

13.10.25

十三官收第七二三號二

大正十三年十月廿四日

琦

玉

縣

知

事

琦玉縣

内務大臣秘書官殿

皇太子殿下海外御巡遊日誌 拾壹部

右御配付相成難有受領仕リ候就テハ本縣立圖書館ニ壹部備付ケ萬里ノ鵬程ニ旅立セ給フ空前ノ御壯舉ヲ慶賀スルト共ニ殿下御巡遊中ノ動靜ヲ廣ク一般ニ知ラシメ度ト存ジ候ニ付テハ餘部モ有之候ヘ^{更ニ}壹部寄贈ヲ得度此段及御依頼候也

裏面白紙

内務省
秘第692
11.7.19

大正十一年七月十五日

秘第692

大臣様

次官

六〇三訓令案

廳府縣長官ハ所属高等官並高等官
待遇職員ニ對シ事務ノ繁閑
ヲ計リ一年シ通シテ二十日以内
ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

本省所管外
ノモノヲ除ク

二

廳府縣長官ニ於テ休暇ヲ得ントスル
場合ハ本大臣ニ願出テ其旅行セ
ントスル向ハ併シ許可ヲ受ケラル
ハシ

右訓令ス

年9

七月

封
警視總監
北海道廳長官宛
存
別封事

内務省

1
閣令第六号 大正十一年七月四日公布

官廳、執務時空の休日及休暇の日ヲ除キ午前
九時より午後四時迄トシ土曜日の午後三
時迄ト人但し七月十七日ヨリ九月十の日の
午前八時より午後三時迄トシ土曜日の
午後三時迄トス

2
土地の状況ニ係リ又ハその為ノ性質上必要
ナル場合ニ於テハ主務大臣ハ内閣總理
大臣ノ許可ヲ得テ各該項ノ執務時空ヲ
変更ス、但シ其又ハ延長ヲあるモノナリ
事出ノ状況ニ係リ必要ナルトモハ執務時空
外ト雖モ執務スルモノトス

内務省

4
本令は定官の所屬職員の勤務時間
ノ繁閑ヲ計リ一年ヲあるにシテ二十日の
以内ノ休暇ヲ與フることナリ
但シ、信子ノ事務ノ執務時空及休暇
ノ付テハ主務大臣別ニ之ヲ定むることナリ

附則

本令は公布の日ヨリ之ヲ施行ス

10月二十五日閣令第六号ハ之ヲ廢止ス

昭和九年十月二十七日中 但シ

ヲ前ニ

大正十一年七月四日

内閣總理大臣 加色友三

一書状

御書

御返書

七月七日

左大臣

同令分六号の内四号ニ申付共支
之々トアリ高貴なる体也ハ大臣
ノ許可ヲ受クハキ義ナルヤ返書
乞フ

内務省

工部省
以三〇一

大正十一年七月十一日

内務大臣秘書官殿

兵庫縣知事

本月四日公布相成候閣令第六號ニ關シ何等カノ御通牒可有之哉至急御
回示相煩度此段及照會候

兵庫縣

裏面白紙

乙

大正十二年十月十六日

大臣

秘書案



次官 會計課長

一年志願兵トシテ服役ニ休職者ノ

俸給ニ関スル件 通牒案

一年志願兵トシテ服役ノ為メ休職ヲ命セラレ

ル者ニ対シテ、明治二十三年三月勅令第六十

二号ニ依リ俸給ヲ給ス一カラサル義ニ有之ル者

為念及通牒云々也

内務省

年月日 秘書官

北海道社長官

参事 總監

完

社務局長

榮養研究所長

衛生研究所長

土木試験所長

農業講習所長

森学館長

房舎課長

裏面白紙

試補並非職休職官吏一年志願兵
服役ノ件

明治二十三年三月廿日勅令第六十二号

朕試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年
志願兵トシテ者服役ノ件ノ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
一内閣總理大臣陸軍大臣副署
試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年
志願兵トシテ者其儘服役スルコトヲ得
但有給者ニ俸給ヲ給セズ試補及判任見習ニ
在リ服役時日ヲ実務練習ノ期召ニ笑入セ
又

高等官及判任官見習ノ事務局

655
13

七月十六日

大正十三年七月十二日

秘書長

大臣

次官

訓令第五

聽行縣長官ハ所屬高等官茲同待遇
遇職員本省所屬外ニ對シ七月三十一日
ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ

内務省

繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ高等後期
間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合
ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコト
ヲ妨ケス
前項ノ期間内ニ於テ便宜
廳府縣長官ニ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日
以内ノ休暇ヲ為スコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ
期間内ニ於テ休暇ヲ為スコトヲ得又他ノ
期間ニ於テ休暇ヲ得トスル場合ニ於
テハ許可ヲ受クヘシ

655

七十六

大正十三年七月十二日

秘書長

大臣

次官

訓令第五

廳府縣長官ハ所屬高等官並
遇職員奉省所定外ニ對シ七
日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ

内務

繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ得
トシ得但シ事務ノ都合ニ依リ
間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得
ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與
シ妨ケス
廳府縣長官前項ノ期間内ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ
以内ノ休暇ヲ為スコトヲ得但シ
期間内ニ於テ休暇ヲ為スコトヲ得
期間ニ於テ休暇ヲ得トスル場
テハ許可ヲ受クヘシ

大正十一年七月十九日訓令第六〇三號ハ之ヲ
廢止ス
右訓令ニ

大正

警視總監
北海道庁長官
府縣知事

直轄市長

内務省

八九〇

秘書長

警視總監
北海道庁長官
府縣知事

切リ 休暇ニ関シ 訓令相成位處 休
暇ヲ 得管外ニ 旅行セントスル 場合ニ 於テ
ハ 當省 在リ 許可ヲ 要スルハ 勿論
ナリ 有之ル 條 在リ 亦 知 未 成
交 相 念 也 也 也 也

七月十六日

参考
旧例

訓六〇三号

所屬高等官並高等官待遇職
員 本府所屬外、 對シ事務ノ繁閑ヲ計リ
一年シ週ニテ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ
得

所屬長官ノ事務ノ繁閑ヲ計リ俸直一年シ
週ニ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得
但シ學外、旅力セントスル場合ニ限リ許可シ受ケル
ヘシ

内務省

右訓令ニ

大正十一年七月十九日

中務大臣

陸奥省

北海道庁長官

府長官

裏面白紙

官報

號外

大正十三年六月二十四日

火曜日

印刷局

閣令

●閣令第四號
大正十一年閣令第六號中左ノ通改正ス
大正十三年六月二十四日

内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

第一項ヲ左ノ如ク改ム
官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス
四月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時迄
九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
十一月一日ヨリ三月三十一日迄
午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
第四項ヲ左ノ如ク改ム
本廳長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

●閣令第五號
大正十一年閣令第六號抄錄
第一項及第四項

官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トシ土曜日ハ午後三時迄トス但シ七月十一日ヨリ九月十日迄ハ午前八時ヨリ午後三時迄トシ土曜日ハ午十二時迄トス
本廳長官ハ所屬職員ニ對シ事務ノ繁閑ヲ計リ一年ヲ通シテ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

省令

●宮内省令第七號
大正十一年宮内省令第八號中左ノ通改正ス
大正十三年六月二十四日 宮内大臣 子爵 牧野 伸顯

官報號外 大正十三年六月二十四日(火曜日) 第三千五百三十三號(郵務省認可)

閣令

第一項ヲ左ノ如ク改ム
宮内職員ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ如ク之ヲ定ム
一 四月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午十二時迄トス
二 七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
三 九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午十二時迄トス
四 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午十二時迄トス

●閣令第六號
大正十一年七月宮内省令第八號抄錄
第一項

宮内職員ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トシ土曜日ハ午後三時迄トス但シ七月十一日ヨリ九月十日迄ハ午前八時ヨリ午後三時迄トシ土曜日ハ午十二時迄トス

訓令

●内閣訓令號外

方今ノ世局最モ人心ノ更新ヲ急トスルノ時ニ當リ積年ノ類風ヲ一洗シ現下ノ洗滌ヲ決スルハ綱紀ノ肅正ニ待ツノ外ナシ綱紀ノ肅正ハ固ヨリ官民一致之ニ當ルヘキモノナリト雖官務ヲ奉ズル者皆能ク率先シテ官紀ノ振肅ヲ實現シ進テ一般綱紀ノ肅正ニ資スルハ其ノ必要殊ニ緊切ナルヲ感ス
一 官吏職務ノ事タル風ニ其ノ制アリト雖近時漸ク弛緩ノ狀ヲ呈シ往往ニシテ公正ヲ棄リ爲ニ刑辟ニ觸ルル者アリタルハ寧ニ遺憾ニ堪ヘス官吏タル者ハ向後一層服務規律ヲ恪守シ身ヲ持スルコト端正廉潔以テ官吏タルノ威信ヲ保持スヘシ

各官廳

一 凡ソ官吏ハ公器ニ奉スル心ヲ盡クシ私ヲ去リ至公至正以テ事ニ當ルヘキ者トス然ルニ或ハ親戚故舊又ハ同郷等ノ愛慕ニ依リ或ハ一黨一派ニ偏倚シ或ハ同僚ノ間ニ黨ヲ作り朋ヲ成シテ互ニ庇保引援シ動モスレハ條理ヲ枉ケ裁斷ヲ左右スルカ如キノ事ナシトセム向後官吏ハ情實ノ弊ヲ排シ公私ノ別ヲ明ニシ嚴正公平ノ地歩ニ立テテ官務ニ執掌スヘシ
一 官吏ハ誠實勤勤其ノ職ニ盡シ一意公ニ奉スルヲ以テ念トセサルヘカラス然ルニ官吏ニシテ或ハ其ノ職責ヲ重シセテ怠惰ニシテ繁瑣ヲ缺クカ如キハ最モ憤ムヘキ所ナリ向後執務ニ當リテハ心身ノ全力ヲ傾注シテ職務ヲ敏捷ナラシメ之カ改善ノ爲ニハ常ニ思索ヲ凝ラシ繁瑣ヲ省キ簡明以テ實效ヲ收ムヘシ
一 官吏ニシテ民間ト接觸スルコト多キ職司ニ在ル者ハ懇切郵寄ヲ旨トシテ一般ノ利便ヲ圖リ進歩シタル方今ノ世運ニ適應セムコトヲ勉ムヘシ
一 官廳執務時間ノ制ハ一切職務ノ規準ヲ特ニ出勤時間ハ其ノ第一規準タルヘキモノナルヲ以テ從來是レヒカ之カ履行ニ勉メタルコトアリシモ今尙正則ニ後レテ尊嚴スル者少シトセス此ノ如キハ執務ノ能率ヲ減退セシメ殊ニ民間トノ交渉多キ官廳ノ如キ一般ノ之カ爲ニ蒙ル損失決シテ鮮ナラサルヘシ今回官廳執務時間ニ改正ヲ加ヘタルハ一般官吏ヲシテ研究休養ノ餘裕ヲラシムルト共ニ一層出勤時間ヲ履行シ執務能率ヲ増進ヲ期スルニ外ナラス向後官吏ハ宜シク此ノ旨趣ヲ體シテ出勤時間ヲ嚴守スヘシ
以上舉タル所ハ固ヨリ官紀振肅ノ一端ニ外ナラスト雖之カ實效如何ハ關スル所極メテ大ナルモノアリ所屬ノ長官ハ特ニ意ヲ此ニ用キテ諸僚ヲ督勵シ戒慎以テ事ニ從ハシメ苟モ違フ者アラハ寬假スルナク能率増進ノ實現ニ就テモ亦能ク適切ナル方途ヲ講シ一ニ振刷刷新ノ實ヲ舉ゲ進テ世局ニ一新生面ヲ開カシムルニ裨補スル所アルヘシ
大正十三年六月二十四日 内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

内務省訓第六五五號

廳府縣長官ハ所屬高等官竝同待遇職員本省所管外ノ者ヲ除ク
ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁
閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ
都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル
場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス
廳府縣長官ハ前項ノ期間内ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計
リ便宜二十日以内ノ休暇ヲ爲スコトヲ得但シ事務ノ都
合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ爲スコトヲ得ス他ノ
期間ニ於テ休暇ヲ得ントスル場合ニ於テハ許可ヲ受ク
ヘシ

大正十一年七月十九日訓第六〇三號ハ之ヲ廢止ス
右訓令ス

大正十三年七月十六日

内務大臣若槻禮次郎

丙第八九〇號

大正十三年七月十六日

内務大臣 祕書官

本日休暇ニ関シ訓令相成候處休暇ヲ得管外ニ
旅行セントスル場合ニ於テハ當省大臣ノ許可ヲ要
スルハ勿論ノ義ニ有之候條右御承知相成度為
念此段及通牒候也

大正十三年七月十二日

大臣

神宮

次官

通修系

神宮

官方各課長

社会局長

各局長

復興局長

各局長

其他所官衛長

七十六

八九一

内務省

本日訓令相成候 休暇ノ取扱方ニ
關シテ左ノ通決定相成候

一 休暇ノ許可手續ハ従前賜暇ノ例ニ
依リ取扱フコト

一 休暇ヲ得 旅行セントスル場合ハ併セテ
之カ許可ヲ受シハセコト

一 休暇ハ可成的当後期間内ニ於テ
之ヲ興フルコト

一、出勤三十日以上、及フモノハ、休暇ヲ共
ハサルコト

一、出勤十五日以上三十日未満ノモノニ付
テハ、適宜休暇日数ニ裁量シ加フルコト

一本件ルハ、
一、^{本件ルハ}一日前既ニ休暇ヲ得ノモノハ、其
ノ日数ヲ控除スルコト

一、嘱託員、雇員ニ對シテハ、高等官又ハ
判任官ニ準シ、休暇ヲ共アルコト

内務省

彦彦

大臣決裁、多

勅任官、賜暇

次官決裁、多

奏任官除技術官リ、賜暇

局長官、理長専決、多

本指技術官新任官、賜暇

判任官、賜暇

所掌各廳長、賜暇

内務省

事務

内務省 第六九一号

大正十一年七月十九日

各省長官

塚本地方官

本日訓令第九四八号 休暇ノ賜与ニ関シ左ノ
通決定スル由ニ

一 休暇ノ賜与ニ付テハ別ニ時期ヲ定メズ各自
ノ都合ニ依リ随分許可シ共フルベト

一 休暇ノ許可手續ハ従来如クノ例ニ依リ
取扱フベト

一 欠勤三十日以上ニ及リキハ休暇ヲ与ハサルコト

内務省

一 欠勤十五日以上三十日本内ノ多クニ付テハ適

宜休暇ノ數ニ裁量ヲ加フルコトアルベシ

一 休暇多ク存員ニ對シテハ高等考査又ハ判

任支ニ準リ休暇ヲ與フルベト

丙第八九一號

大正十三年七月十六日

内務大臣秘書官

本日訓令相成候休暇ノ取扱方ニ関シ左ノ通決定相成候

- 一 休暇ノ許可手續ハ從前賜暇ノ例ニ依リ取扱フコト
- 一 休暇ヲ得旅行セントスル場合ハ併セテ之カ許可ヲ受クヘキコト
- 一 休暇ハ可成的當該期間内ニ於テ之ヲ與フルコト
- 一 缺勤三十日以上ニ及フモノハ休暇ヲ與ヘサルコト
- 一 缺勤十五日以上三十日未滿ノモノニ付テハ適宜休暇日數ニ裁量ヲ加フルコトアルヘシ
- 一 本年七月一日前既ニ休暇ヲ得タルモノハ其ノ日數ヲ控除スルコト
- 一 嘱託員雇員ニ對シテハ高等官又ハ判任官ニ準シテ休暇ヲ與フルコト

656
7
18

七月十六日
行

大正十三年七月十四日

大臣

次官

秘書官

訓令案

大臣府房各課
監察官
各局

造神官傳麻
明治神宮造司

内務省

警察講習所
土木試験所
衛生試験所
榮光研究所
武蔵野学院
職業講習所
療養所
特殊財産子
市町村地方自治會
社

訓字六五五号 復興局

本省現所屬職員、對シ七月三十一日ヨリ八月三十一日迄、間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フ但シ事務ノ都合ニ依リ、當後期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フ
休暇ヲ得ントスル者ハ、執出シ許可ヲ受クハシ

内務省

社會局復興局造神宮使廳ノ委任官：對シテハ其ノ長官又ハ副使、警察講習所土木出張所土木試験所衛生試験所、米養老研究所、武藏野學院職業紹介事務局、癩病院所屬職員ニ對シテハ其ノ所長局長又ハ院長限リ許可ヲ與ヘラルヘシ
大正十一年七月十九日訓ヲ六〇〇號ハ之ヲ廢止ス
右訓令主人
三ノ

新
四
想

備考

社會官
復興官

造和官便座

勅任官、本有、許可、ヲ受ケル
委任官、凡、又長官、ニ委任
ス

経済海軍所
土木少佐所
土木技師所
衛生技師所
岸電研究所

所見、従先、ヲ除キ
委任官、利任、以下
凡、委任、人

内務省

試充、又少佐
所、又少佐、又少佐
所、又少佐

本者、又委任、又技術官
未者、又利任、又少佐
所、又管、又官、又解、又長

徑賜、又暇、又例、又修、
局長、又於、又專、又決、又人

勅任、又人、
大臣、又法、又裁

委任、又人、
又除、又人、
次、又立、又決、又裁

五頁

内務省訓令第六〇号

地方官

本省管下の政令に對し事務の繁閑を計り一年を通じて二十日以内の休暇を與ふ

之れ若し併せて許可し受けるに依り得る場合ハ概出テ其旅行セントシテ神宮使館等並ニ對シテ副使、物理財產管理官、衛生試驗所、業務研究所及

内務省

或ハ物理学研究所職員ニ對シテ其所長又ハ院長限リ許可シ其ハラルルニ右訓令之人

大正十一年七月十九日

内務省大臣 齋藤實

内務省訓第六五六號

地

本省茲所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ敏系閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フ但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フ

休暇ヲ得ントスル者ハ願出テ許可ヲ受クヘシ
社會局復興局造神宮使廳ノ奏任官ニ對シテハ其ノ長官又ハ副使、警察講習所土木出張所土木試験所衛生試験所榮養研究所武藏野學子院職業紹介事務局 廢兵院

所屬職員ニ對シテハ其ノ所長局長又ハ院長限リ許可ヲ與ヘラルヘシ

大正十一年七月十九日訓第六〇〇號ハ之ヲ廢止ス
右訓令ス

大正十三年七月十六日

内務大臣

大正十三年七月十五日

解りたる

改り

豊彦

秋信

由名書名子長記

今般国令切四考リ以テ改正有ルル
休暇ヲ造ルル期ヲ他ノ期間ノ解釈
ニ関シテ三説ヲ生ス

内務省

七十六

八十九

- (一) 特定期間ヲ除キ一月一日ヨリ七月廿日
及九月一日ヨリ十二月末日迄ノ間
 - (二) 九月一日ヨリ翌年七月廿日迄ノ間
 - (三) 九月一日ヨリ其ノ年十二月末日迄ノ間
- ハ特定期間前ニ休暇ヲ繰上クルコト
為リ三ハ期間ノ限局狭キニ失シ共
ニ妥当ナラス
- 二 特定期間ノ終ヨリ翌
年休暇始メ即九月一日ヨリ翌年七月
廿日迄ノ間ヲ以テ他ノ期間トスルヲ適
当ノ解釈ト存セシレ候旨 右様決定スヘ

大正十三年七月十九日

解り

改り

豊会子

秋官

由名書長子長

今般園令分四号ヲ以テ改正

休暇ヲ造ルル期ヲ他ノ期間

ニ置シテ、三説ヲ生ス

内

(一) 特定期間ヲ除キ一月一日ヨリ

及九月一日ヨリ十二月末日迄ノ

九月一日ヨリ翌年七月廿日迄

九月一日ヨリ其ノ年十二月末日迄

ハ特定期間前ニ休暇ヲ繰上

、為リ三ハ期間ノ限局狭キ

ニ妥当ナラス

(二) 特定期間ノ終

年休暇開始ノ即九月一日ヨリ翌

廿日迄ノ間ヲ以テ他ノ期間トス

当ノ解致ト存ト候事 右様決

七十六

八八九

少相考候文御意見如何哉承知
致度

二

内務省

十三秘第 二九 六 歸

大正十三年七月九日

長崎縣知事



内務大臣祕書官殿

今般閑令第四號ヲ以テ本属長官ハ所属職負ニ對シ七月三十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケサルコトニ改正相成休暇ハ原則トシテ七月三十一日ヨリ八月三十一日迄ノ特定期間内ニ與ヘ公務上

長崎縣

特殊ノ事情アル者ニ限リ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケサル除外例ヲ設ケラレタル義ニ候付テハ他ノ期間トシテ特定期間タル七月三十一日ヨリ八月三十一日迄ノ期間ヲ除キタル一月一日ヨリ七月二十日及九月一日ヨリ十二月末日迄ナリヤ(二)或ハ九月一日ヨリ翌年七月二十日迄ナリヤ(三)九月一日ヨリ其ノ年十二月末日迄ナリヤ(四)御意見見養度

長崎知事合

他、期間トハ

(一) 特定期間タルハ七月廿一日ヨリヲ除キタル一月一日

ヨリ七月廿日及九月一日ヨリ十二月末日

迄ナリヤ

(二) 九月一日ヨリ翌年七月廿日迄ナリヤ

(三) 九月一日ヨリ其ノ年十二月末日迄ナリヤ

内務省

内甲第一四七號

大正十三年七月二十一日

内閣書記官長

江木



内務次官 湯浅倉平 殿

回 答

本月十六日内第八八九號大正十一年閣令第六號官廳執務時間ニ關スル
件第四項ノ「他ノ期間」ノ解釋ニ關シ照會ノ處有ハ休暇日數ハ歷年ヲ
以テ算定シ所謂他ノ期間トハ特定期間（自七月二十一日）ヲ除キタル
一月一日ヨリ七月二十日迄及九月一日ヨリ十二月末日迄ノ期間ト承知

閣

相成度

内甲第一四七號

大正十三年七月二十一日

内閣書記官長

江木

内務次官 湯淺倉平 殿

回 答

本月十六日内第八八九號大正十一年閣令第六號官廳執務時間
件第四項ノ「他ノ期間」ノ解釋ニ關シ照會ノ處右ハ休暇日數
以テ算定シ所謂他ノ期間トハ特定期間（自七月二十一日）
一月一日ヨリ七月二十日迄及九月一日ヨリ十二月末日迄ノ期

相成度

内甲第一四七號

大正十三年七月二十一日

内閣書記官長 江木 翼

内務次官 湯淺倉平殿

回答

本月十六日丙第八八九號大正十一年閣令第六號官廳執務時間ニ關スル件第四項ノ「他期間」ノ解釋ニ關シ照會ノ處右ハ休暇日數ハ曆年ヲ以テ算定シ所謂他ノ期間トハ特定期間(自七月三十一日
至八月三十一日)ヲ除キタル一月一日ヨリ七月二十日迄及九月一日ヨリ十二月末日迄ノ期間ト兼知相成度

大正十三年七月廿五日

秘書長

次子

通解案

秘書長

九六四號

警視總監

北川道徳

次子

秘書長

内務省

送部令別件 昭及印令送部令

在部令送部令 昭及印令送部令

各局 前令送部令

工本令送部令 昭及印令送部令

衛生令送部令 昭及印令送部令

教育令送部令 昭及印令送部令

警察令送部令 昭及印令送部令

都布令送部令 昭及印令送部令

大正十一年閣令第六號 官制官階令
閣令六件 第四項 他ノ期間

七月廿五日

七月廿五日

ノ解釋ニ関シ於我ノ通リ申周者凡
字長クニ回冬首之候序 為口糸
考 又後撰候

三編類ハ物是則言ニ准ル一言ニ盡シテ是也
之ノ編起ニ於テ中四運、乾ノ下ニ起ルニ其ノ一也
之ニ至リト 徳也

内務省

丙第九六四號

大正十三年七月二十八日

内務大臣 秘書官

大正十一年閣令第六號官廳執務時間ニ
関スル件第四項ノ「他ノ期間」ノ解釋ニ關シ
別紙ノ通内閣書記官長ヨリ回答有之候ニ付
為御參考及移牒候

2

七月廿八日

七月廿八日 施行

大正十三年七月廿五日

祝年々々

大臣

次々々

案

九六五

次々々

参観巡遊

北海道廳長

府縣知事

内務省

依命通牒

従来各大臣地方旅行ノ場合ニ於テ
 官民有志多数 停車場ニ送迎シ
 為シ一種ノ風習シ成セル哉ニ見受
 ケラレ候最官廳ト民間トノ間ハス日
 常ノ事務繁劇ヲ極ムルノ折柄單ニ
 送迎ノ為ニ無用ノ時間ヲ費ヤレ或ハ
 為ニ各自ノ業務ヲ妨クルハ送迎者ノ
 迷惑タルハ勿論送迎ヲ受クル者ニ在
 リテモ却テ煩累ヲ免ヘサルハキコトハ

被考候就テハ今後大臣ノ旅行其
他官吏ノ来往ニ際シ官廳側ニ於
テ一般ニ率先シ特ニ而橋シ要スル用
務アル場合ノ外苟モ虚禮ニ涉ルノ送
迎ハ一切之ヲ見合セ官民共ニ弊習
ヲ一洗スヘキ様御配意相成度候

通曉案

次子

内務省

公上

各省次官宛

地方官民ノ大臣其他官吏送迎廢
止方ニ關シ別紙ノ通各地方官長宛及上候
ニ付御旨置取候文

大正十三年二月十日

大臣

秘書

次官

案

次官

存照

五

土地區劃整理事業施行ニ要スル

内務省

技術員推薦方ノ件

國及市ノ事業トシテ震災災区域内ニ於テ
 土地區劃整理ノ施行ハ帝都復興
 事業中ノ最喫緊ノ事ニ屬シ東
 京市内焼失區域中整理ヲ要スル
 民有地七百万坪ニ對シ施業設計ノ
 敏速完成ヲ期スルニハ一地區三万坪
 ノ至五万坪ニ少クトモ一名ノ主任技
 術者ヲ要シ候處區劃整理ニ經
 験アル多數ノ技術者ヲ一時ニ美良

成スルコトハ到底望ムヘキナリ所ニ有之
依テ各府縣ニ於テモ帝都復興事業
援助ノ趣旨ヲ以テ事情ノ許ス限リ
耕地整理ニ從事スル技術員中ヨリ
優秀ナル者一名乃至二名ヲ選拔
シ事業完成ニ至ル迄ノ間復興院
ニ採用シ該事業ノ施行ニ當ラシメ
候様致度ニ付右御諒儀ノ上推薦
方ニ於テ御配慮相煩ニ度
宜テ御推薦ニ付テ其ノ人名履

内務省

麻生書記官御材料タルハキヤ人ノ技
術ニ関スル事業証書写シ可成速ニ内
回送相煩ニ度候

土地區劃整理事業施行ニ要スル技術員採用備用方各府縣知事ニ依頼ノ件
復興院

國及市ノ事業トシテ燒失區域内全部ニ
對シ土地區劃整理ヲ施行スルハ帝都復興
事業中最喫緊ノ事トニ屬ス而シテ該事
業ノ施行ニ當リテハ東京市内燒失區域
帝都復興院

中整理ヲ要スル部分民有地七百万坪ヲ約
百五十ノ地區ニ分割シ(一地區三万坪乃至五万坪)
施業スルヲ最モ便トス而モ之カ設計實施
ヲ敏速ナラシメ市民ヲシテ一日モ速ニ本建
築ヲナサシムル為ニハ一地區又ハ二地區ニ少

クトモ一名ノ主任技術者ヲ設置スルコトヲ要ス
(即チ七十五名乃至百五十名)然ルニ區劃整理ニ經
験アル多数ノ技術者ヲ一時ニ養成スルコト
ヲ得ザルハ論ヲ俟タズ依テ各府縣ニ於テモ
帝都復興事業援助ノ趣旨ヲ以テ事情
帝都復興院

ノ許ス限リ耕地整理ニ従事スル技術員中ヨ

リ一名乃至二名宛ヲ事業完成迄約一ケ年間

復興院ニ一時轉勤セシメ該事業施行ニ當

ラシメラレムコトヲ望ム

大正十三年三月四日

井上内務次官

土地區劃整理事業施行ニ要スル技術員推薦
方件

國及市ノ事業トシテ震火災區域内ニ於ケル土地區劃整
理ノ施行ハ帝都復興事業中最喫緊ノ事ニ屬シ東
京市内燒失區域中整理ヲ要スル民有地七百万坪ニ對シ
施業設計ノ敏速完成ヲ期スルニハ一地區三万坪乃至
五万坪ノ少クトモ一名ノ主任技術者ヲ要シ候處區劃
整理ノ經驗アル多数ノ技術者ヲ一時ニ養成スルコト

ハ到底望ムヘカラサル所ニ有之依テ各府縣ニ於テモ
帝都復興事業援助ノ趣旨ヲ以テ事情ノ許ス限り
耕地整理ニ從事スル技術員中ヨリ優秀ナル者一名乃
至二名ヲ選抜シ事業完成ニ至ル迄ノ間復興局ニ採
用シ該事業ノ施行ニ當ラシメ候様致度ニ付右御諒
蒙、上推薦方可然御配意相煩シ度

追テ御推薦ニ付テハ其ノ人名履歷書並銓衡材
料タルハキ本人ノ技術ニ關スル學業証書写可成
速ニ御回送相煩シ度候

土地區劃整理事業施行ニ要マル技術員ヲ復

興局ニ採用方各府縣知事ニ依頼シテ

國及市ノ事業トシテ燒失區域内全部ニ對シ土地區劃整理事業ノ施行スルハ帝都復興事業中最喫緊ノ一ト爲ス而シテ該事業ノ施行ニ當リテハ東京市内燒失區域中整理ヲ要スル部分民有地七百万坪ヲ約百五十ノ地區ニ分割シ(一地區三万坪乃至五万坪)施業スルヲ最モ便トス而モ之力設計實施ヲ敏速ナラシメ市民ヲシテ一日モ速ニ本建築ヲナサシムル爲ニハ一地區又ハ二地區ニシテトモ一名ノ主任技術者ヲ設置スルコトヲ要ス(即チ七十五名乃至百五十名)然ルニ區劃整理ニ經驗アル多數ノ技術者ヲ一時ニ養成スルコトヲ得ザルハ論ヲ俟タズ依テ各府縣ニ於テモ帝都復興事業援助ノ趣旨ヲ以テ事情ノ許ス限リ耕地整理ニ從事スル技術員ヨリ優秀ナル者一名乃至二名宛ヲ選抜シ事業完成迄復興局ニ轉勤セシメ該事業施行ニ當ラシメラレムコトヲ望ム

大正十四年八月廿日

秘書官

次官

地方局長

土木局長

高等文官ニシテ府縣參事會會員

市町村吏員懲戒審査會員土地收用

審査會委員タルヘキ者ノ命免關スル件

府縣高等官ニシテ府縣參事會會員並

高等官ニシテ土地收用審査會委員夕

一六

内務省

ルヘキ者ノ命免方ニ関シテハ從來別紙ノ

通決定通牒ノ次第モ有之候處其後

官制改正ニ依リ官名ニ変更アリ又市町

村吏員懲戒審査會會員ノ命免方ニ関

シテハ何等取定ノタルモノ無之ニ付右

命免ニ関スル取扱方自今左ノ通決定

相成可然哉相伺候

記

タル書記官及其他

(定員二名)

一、府縣參事會會員ハ内務部長及敬察

部長タル書記官

東京府本署内務部長ヲ以テ

ヲ以

テ之ニ充ツルコト

定員三名

二、~~市村吏員~~ 徵收~~成~~ 審査會會員ハ内務部長
タル書記官~~及~~ 其他~~ハ~~ 書記官若ハ地方事務官ノ内一
人ヲ以テ之ニ充ツルコト

定員三名

三、土地收用審査會委員ハ内務部長
タル書記官、土木課長タル地方技師
土木課長タル地方技師ナキ府縣ニ
在リテハ土木主任タル地方技師 及府縣廳所
在地ノ稅務署長タル司稅官一人ヲ以テ
之ニ充ツルコト

内務省

四、第一號ノ内務部長及警察部長タル
書記官第二號~~前~~ 第三號ノ内務部長
ル書記官~~付~~ 付テハ當省ニ於テ直チニ
之ヲ命シ其他ノ者ニ付テハ府縣知事
ノ~~内~~ 内申ヲ待チテ然ル後之ヲ命
スルコト

五、第一號乃至第三號ノ會會員禾女員
ヲ命セラレタル者其ノ關係府縣以外ニ
任所ヲ轉シタルトキハ會會員禾女員ハ之
ヲ免セラレタルモノトス此ノ場合ニ於テ

ハ府縣知事ヨリ本人ニ對シ其ノ旨
通知スルコト

備考附記

會員未女員ヲ命セラレタル者廢官退
官免官失官轉任若ハ休職ト爲リタ
ルトキハ會員未女員ハ自然消滅シタ
ルモノトス

地方事務官ニシテ現ニ會員未女員タル者ハ
其ノ儘ニ存置スルモノトス
年曆日祕書官

各府縣知事宛

内務省

通牒

府縣高等官ニシテ府縣參事會員
市町村吏員徵心戒審査會員タルヘキ者並
高等文官ニシテ土地收用審査會委
員タルヘキ者ノ命免ニ関スル取扱方
左ノ通決定相成候

記

前記決定ノ記載スルコト

11

大正十五年二月三日

秘書官

案

秘書官

年月日

北海道廳長官

警視總監

各府縣知事

賞與施行報告ニ関スル件

内務省

二八

二五

貴社高等官以下年末又ハ年度末
 賞與報告方大正十一年一月九日而第四
 號ニ依テ命通牒及七置候処該
 報告免申放漫ニ流ルヘ向有之今後
 ハ施行後可成連ニ右通牒様式
 ニ依リ提出相成様致度
 迎知昨年末賞與ノ命ニ依テ未提出
 向此際連ニ報告相成度

内第四號

大正十一年一月九日

内務大臣秘書官

貴縣高等官以下年末又八年度末賞與施行相成候結果別紙様式ニ依リ
御報告相成度依命此段及通牒候也

内務省

賞與報告

廳 府 縣

計	判任待遇	奏任待遇	待遇	臨時費			經常費				
				合計	判任官	高等官	合計	判任官	高等官		
			遇職負 (土木衛生関係等)								賞與額
											俸給月額
											賞與人負
											俸給月額 對之賞與歩合

計											
人								賞與 俸給月額 円	賞與 俸給月額 円	高等官待遇 賞與	府縣 氏名

備考
 經常部ト臨時部トリ区分スルコト
 備考相六中達就職轉免等、月日ヲ記
 入スルコト
 判任官判任官待遇ニ此、報告ヲ要セス

丙第一一〇號

大正十五年二月五日

内務大臣秘書官

賞與施行報告ニ關スル件

貴廳高等官以下年末又ハ年度末賞與報告方大正十一年一月九日丙第四號ヲ以テ依命通牒及ヒ置假處該報告兎角放漫ニ流ルル向有之今後ハ施行後可成速ニ右通牒樣式ニ依リ提出相成樣致度

追テ昨年末賞與ノ分ニシテ未提出ノ向ハ此際速ニ報告相成度

大正十五年二月三日

二五

一 一 一 案

年月日

秘書官

北海道廳長官

警視總監

光

各府縣知事

一七

課長命免異動報告ニ関スル件

内務省

標記ノ件大正十一年九月四日發第第三
 五六號ノ以テ一週牒及ニ置候處往々
 該報告遲延若クハ報告ナキ向有之
 差支テ生シ候ニ付今後課長高等官
技術官ニ更迭異動アリ名場合ハ其
 都度速ニ報告相成様致度
 局念此段及通牒候也

發第三五六號

大正十一年九月四日

內務大臣秘書官

貴縣內務部、警察部、產業部內各課長名八月末日現在ヲ以テ調製ノ上
送付相成度向今後課長更迭ノ際ハ報告相成度候也

內務省

丙第一二一號

大正十五年二月五日

内務大臣秘書官

課長命宛異動報告ニ關スル件

標記、件大正十一年九月四日發第三五六號ヲ
以テ通牒及ニ置假處往々該報告遲延若ハ
報告ナキ向有之差支ヲ生レ假ニ付今後課長
（高等官技術官）ニ更迭異動アリタル場合ハ其ノ
都度速ニ報告相成様致度爲念此段及通

牒候也

大正十五年二月十七日

祕書官

案

祕書官

警視總監
北海道廳長官
各府縣知事
宛

一五二

一九

官吏任命敘位敘勲等
出シテハルル復歴書往々不備粗畧
流レ甚シキハ定例敘勲内申添

内務省

付、復歴書有勲者、事項ヲ記
載セズ、現、有勲者、
勲等、擬、合、内、申、為、
勲、不、都、合、釀、ス、モ、
誤、生、スル、畢、竟、復、
粗、畧、出、ル、モ、ニ、
所、有、之、而、
書、據、外、取、調、途、無、
今、後、復、歴、書、
調、査、
就、勲、等、有、無、
漏、様、御、取、計、
通、牒、候、也、

丙第一五二號

大正十五年二月二十日

内務大臣祕書官

官吏ノ任命叙位叙勲等ニ關シ提出セララル履
歷書往々不備粗畧ニ流レ甚シキハ定例叙
勲内申ニ添付ノ履歷書ニ叙勲ノ事項ヲ記
載セス現ニ有勲者ニ對シ初叙ノ勲等ヲ擬シ
テ内申シ爲ニ重複叙勲ノ不都合ヲ醸スモノ
アリ此ノ如キ錯誤ヲ生スルハ畢竟履歷書ノ不

備粗畧ニ出ツルモノニシテ深ク戒メサルヘカラサル所ニ
有之而モ當省ニ於テハ一ニ履歷書ニ據ルノ外
取調ノ途無之次第ニ付今後履歷書ノ提
出ニ付テハ特ニ充分ノ調査ヲ遂ケラレ尚叙勲ニ
關シテハ本人ニ就キ勲等ノ有無ヲ取糺ス等
萬遺漏ナキ様御取計相成度此段及通
牒候也

大正十五年七月九日

秘書官

案

年月日

秘書官

各府縣知事

東京府知事

警視總監

先ノ除ク

七月十三日
丙午六月六日

二 今回改正ノ地方官々制（警視廳官制）ニ依リ警察署ノ位置名稱及管轄

内務省

区域ハ知事（警視總監）ニ於テ之ヲ定メラルルコトニ相成候處地方官（警視）
シテ警察署長ニ充ツキ警察署ノ署名ノ変更其他署長ノ補職ニ異動ス生スヘキ場合ハ豫メ本省ニ御打合セシ上中務大臣指針ニ準テ
施行セラルル様御取計相成度
此段及通牒候也

（送テ消防司令ヲ以テ消防署長ニ充ツル消防署ニ付テモ亦同様ニ御取計相成度）

警視廳
分入ルコト
加ルコト

丙第六六二號

大正十五年七月十三日

内務大臣秘書官

今更改正ノ地方官官制(警視廳官制)ニ依リ警察署ノ位置名稱及管轄區域ハ知事(警視總監)ニ於テ之ヲ定メラルコトニ相成候處内務大臣ノ指定シタル地方警視(警視)ヲ以テ警察署長ニ充ツヘキ警察署ノ署名ノ變更其他該署長ノ補職ニ異動ヲ生スヘキ場合ハ豫メ本省ニ御打合せノ上施行セララル様御取計相成度此段及通牒候也

大正十五年十一月三十日

案

秘書官

警視總監

北海道廳長官 宛

府縣知事

一三九八

下級勲章還納及勲記領票ニ
関スル件

内務省

標記ノ件ニ付テハ從來直接賞勲局
送付ノ向ニ有之區々ニテ取扱上不便不
敷候ニ付尔後總テ當省、御送付
相成様致度及通知候也

土三十一

丙第一三九八號

大正十五年十二月三十日

內務大臣祕書官

縣知事殿

下級勲章還納及勲記

領票ニ關スル件

標記、件ニ付テハ從來直接賞勲局へ送
付、向モ有之區々ニシテ取扱上不便不
甚候ニ付爾後ハ總テ當省へ御送付相成
様致度及通知候也

大正十三年三月十八日

秘書官

電報案

次官

三月十九日
發電

奉 付 縣 知 事 宛
土地區劃整理事業技術欠乏急
推薦セヨ

秋田 福幸川 北海道 札幌

内務省

裏面白紙

大正十三年十二月十八日

秘書官

次官

通知案

秘書官

各府縣知事一先

一六三〇號

十月十八日

十四

内務省

今日地方官々制^{改正}公布セシ各部長、書記官、理事官、地方事務官、警視、地方警視、官名ヲ改メ内務部長、警察者ノ異動々ノ通知ニ止ムキニ付従前内務部長、警察部長、理事官、警視ニテ右通知トシ各其ノ當該官職ニ任補セラレタレト申知相成度此假及通知トス

部長、補職トシ別ニ辞令ヲ交付セラルル者ハ自然廢官トナル等ニ有之矣又改正官制公布當日、廢官者及轉任者ノ異動々ノ通知ニ止ムキニ付従前内務部長、警察部長、理事官、警視ニテ右通知トシ各其ノ當該官職ニ任補セラレタレト申知相成度此假及通知トス

大正十四年五月一日

政務次官

証書
大又

大自

次官

参與官

別紙復興事業促進
訓令案及通牒案
閣スル
仰
裁

内務省

訓令案

復興局

帝都、復興ハ各般ノ施設其ノ計畫
無ク成リ事業ノ實施亦順次其ノ
進捗ヲ見ツ、アト雖モ關係都市
現下ノ交通、保安、衛生等諸般ノ
點ニ關スル重大ナル缺陷ニ顧ミ其
ノ改善ノ急ヲ要スルノ實情ニ比ス
ルニ未タ従前ノ進捗程度ヲ以テ滿
足スヘカラスハ論ヲ俟タサル所ナリ就中

内務省

土地區劃整理ハ復興事業ノ根基
ナリ其ノ前提タルヲ以テ之カ達成ハ
一日モ速ナラムコトヲ期セサルヘカラス然ルニ
其ノ進行豫期ニ副ハス或ハ設計
ノ立案ニ多大ノ日子ヲ費シ或ハ委
員會日ノ審議ニ不測ノ停顿ヲ見
ルカ如キモノアリ災餘ノ市民ヲシテ
永ノ不安ノ念慮ヲ懷カシムルニ十
ラズ惹テ街路工事其ノ他關係諸
事業ノ進行ヲ阻害スルノ虞ナ

キニ非サルハ頗ル遺憾トスル所ナリ斯
ノ如キハ或ハ事業ノ性質上避クヘカラ
サル事由ニ起因スルモノ之アルハシト雖
モ關係職員ノ更ニ一段ノ努力ヲ要
スルモノアルヲ思ハシムムハアラヌ

區劃整理ノ事タル其ノ事業ノ複雑
ニシテ多岐ニ亘リ關係者ノ利害最
モ錯綜スルカ故ニ整理委員會並
關係市民等ニ對シ梅衝ヲ要スヘ
キ事項續出シ其ノ間幾多ノ

内務省

難問ニ逢著スルコトアルヘク審議機
關ノ意見ヲ尊重シ關係者ニ對
スルニ懇切ヲ旨トスヘキハ勿論ナリト
雖モ之カ為徒ラニ事業ノ停滞シ
招ノカ如キコトアルヘカラス關係職員
ハ苟モ事業ノ障碍タルヘキ事由
ニ付テハ直ニ其ノ原因ヲ探ネ適切
ナル解決ノ方途ヲ講スヘク漫然
放置シテ事業ノ進行ヲ遲延スル
カ如キコトナキヲ要ス

今や復興事業ハ新タニ其ノ執行第
三年次ヲ迎、區劃整理ハ一般ニ
家屋移轉實施ノ重要時期ニ
入ラムトスルニ當リ各員更ニ心ヲ新
ニシテ帝都復興ニ關スル
詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シ自ラ其ノ
職責ノ重キニ省ミ同心戮力以テ
事業完成ノ效ヲ擧ケタルニ萬遺
算ヲキリ期セラルヘシ

大正十四年五月一日

内務省

内務大臣 若槻禮次郎

施行日

依命通牒案

内務次官

東京府知事

神奈川縣知事 宛

復興事業就中土地區劃整理事業ノ進行豫定ノ如クナラサルモアリ延テ關係諸事業ノ實施亦之ヲ為ニ邊延セムトスルノ慮ナ

内務省

キニ非ルハ頗ル憂慮ニ堪ハサル次第ニ有之今般事業促進ニ關シ復興局ニ對シ別紙ノ通訓令相成候ニ付テハ東京市(横濱市)ニ對シテモ右ノ趣御傳達ノ上事業進行上遺憾ナキ措置ヲ講セシムル様御取計相成度依命此段及通牒候也

訓令案

復興局

帝都ノ復興ハ各般ノ施設其ノ計畫全ク成リ事業ノ實施亦順次其ノ進捗ヲ見ツツアリト雖トモ關係都市現下ノ交通、保安、衛生等諸般ノ點ニ關スル重大ナル缺陷ニ頓ミ其ノ改善ノ急ヲ要スルノ實情ニ比スルニ未ダ従前ノ進捗程度ヲ以テ満足スヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナリ

就中土地區劃整理ハ他ノ一切ノ復興事業ノ根基タリ其ノ前提タルヲ以テ
之カ達成ハ一日モ速ナラムコトヲ期セサルヘカラス然ルニ其ノ進行勦キ
不レハ豫定ノ如クナル能ハス或ハ設計ノ立案ニ多大ノ日子ヲ費シ或ハ委
員會ノ審議ニ不測ノ停頓ヲ見ルカ如キモノアリ災餘ノ市民ヲシテ永ク不
安ノ念慮ヲ懷カシムルノミナラス^甚テ街路工事其ノ他關係諸事業ノ進行
ヲ阻害セムトスルノ虞ナキニ非ルヲ見ルハ頗ル遺憾トスル所ナリ斯ノ如

キハ或ハ事業ノ性質上避クヘカラサル事由ニ起因スルモノ之アルヘシト
雖^一本關係職員ノ^一層ノ努力ヲ^一要スル^一ヲ思ハシメス
ンハアラス
區劃整理ノ事タル其ノ事業ノ複雜ニシテ多岐ニ亘リ關係者ノ利害最モ錯
綜スルカ爲メ整理委員會ハ素ヨリ廣ク關係市民ト接衝ヲ要スヘキ事項續
出シ其ノ間幾多ノ難問ニ逢著スルコトアル^一トキハ^一固ヨリ其ノ所トス^一而

シテ審議機關ノ意見ヲ尊重シ關係者ニ對スルニ懇切ヲ旨トスヘキハ勿論
ナリト雖トモ亦之カ爲徒ラニ事業ノ停滯ヲ招クカ如キコトナキニ注意ス
ルハ故モ緊要ノコトナリトス關係職員ハ苟モ事業ノ障礙タルヘキ事由ニ
付テハ直ニ其ノ原因ヲ探ネ之カ適切ナル解決ノ方途ヲ講スヘク漫然放
置シテ事業ノ進行ヲ遲延スルカ如キコトナキニ努メラルヘシ

今ヤ復興事業ハ新々ニ其ノ執行第三年次ヲ迎へ區調整理ハ一般ニ家屋移

轉實施ノ重要時期ニ入ラムトスルニ當リ各員ト更ニ心ヲ新々ニシテ帝都
復興ニ勵スル

詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シ自ラ其ノ職責ノ重キニ省ミ同心戮力以テ事業完成
ノ效ヲ擧クルニ萬遺憾ナキヲ期セララルヘシ

依命迎候（東京府知事、神奈川縣知事宛）

復興事業就中土地區劃整理事業ノ進行豫定ノ如クナラサルモノアリ

索テ關係諸事業ノ實施亦之カ爲ニ遅延セムトスルノ虞ナキニ非ルハ

頗ル憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之今般事業促進ニ關シ復興局ニ對シ別

紙ノ通訓令相成候ニ付テハ東京市（横浜市）ニ對シテモ右ノ趣御傳

達ノ上事業進行上遺憾ナキ措置ヲ請セシムル様御取計相成度依命此

段及迎候也



復
興
局

標
原
納

復興局

帝都ノ復興ハ各般ノ施設其ノ計ニ漸ク成リ事業ノ實施亦順次其ノ進行ノ見ツノマリト雖モ關係都市現下ノ交通保安衛生等諸般ノ點ニ關スル重大ナル缺陷ニ顧ミ其ノ改善ノ急シ要スルノ實情ニ比スルニ未ダ從前ノ進捗程度ヲ以テ満足スヘカラサルハ論ノ俟タル所ナリ就中土地區劃整理ハ復興事業ノ根基タリ其ノ前提ヲ以テ之カ達成ハ一日モ速ナラムニトシ期ニナルヘカラス然ルニ其ノ進行豫期ニ副ハス或ハ設計ノ立案ニ多ク日子ノ費シ或ハ委員會ノ審議ニ不測ノ停頓ヲ見ルカ如キモノアリ災餘ノ市民ヲシテ永ク不安ノ念慮ヲ懷カシムルノコトナラス延テ街路工事其ノ他關係諸事業ノ進行ヲ阻害スルノ虞ナキニ非サルハ

頗ル遺憾トスル所ナリ斯ノ如キハ或ハ事業ノ性質上避クヘカラサル事由ニ起因スルモノニアルハト雖モ關係職員ノ更ニ一段ノ努力ヲ要スルモノアルヲ思ハレメスムハアラス區劃整理ノ事タル其ノ事業ノ複雑ニシテ多岐ニ亘リ關係者ノ利害最モ錯綜スルカ故ニ整理委員會並關係市民等ニ對シ折衝ヲ要スヘキ事項續出シ其ノ間幾多ノ難問ニ逢著スルコトアルハク審議機關ノ意見ヲ尊重シ關係者ニ對スル懇切ヲ旨トスヘキハ勿論ナリト雖モ之カ為徒ラニ事業ノ停滯ヲ招クカ如キコトアルヘカラス關係職員ハ苟モ事業ノ障礙タルヘキ事由ニ付テハ直ニ其ノ原因ヲ探不適切ナル解決ノ方途ヲ講スヘク漫然放置シテ事業ノ進行ヲ遲延スルカ如キコトナキヲ要ス今ヤ復興事業ハ新クニ其ノ執行第三年次ヲ迎ヘ區劃

整理ハ一般ニ家屋移轉實施ノ重要時期ニ入ラムトスルニ
當リ各員更ニ心ヲ新タニシテ帝都復興ニ關スル
詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シ自ラ其ノ職責ノ重キニ省
ミ同心戮力以テ事業完成ノ效ヲ擧クルニ萬遺
算ナキヲ期セラルヘシ

大正十四年五月一日

内務大臣若槻禮次郎



行

合
八
二
二
二

大正十四年十月七日

秘書官

次官

地方局長

土木局長

高等文官ニシテ府縣參事會員

市町村吏員懲戒審査會員土地收用

審査會委員タルヘキ者、命免ニ関ス

ル件

府縣高等官ニシテ府縣參事會員並

内務省

高等官ニシテ土地收用審査會委員

タルヘキ者ノ命免方ニ関シテハ從來別紙

ノ通決定通牒ノ次第モ有之候處其

後官制改正ニ依リ官名ニ変更アリ又市

町村吏員懲戒審査會員ノ命免方ニ

関シテハ何等取定ノタルモノ無之ニ付

右命免ニ関スル取扱方自今左ノ通決

定相成可然哉相伺候

記

一府縣參事會員ハ内務部長タル書記

定員ニ召

(定員三名)

官及其、他ノ書記官ノ内一人ヲ以テ之

ニ充ツルコト

二 市吏員徴戒審査會員ハ内務部長

タル書記官及其、他ノ書記官(若ハ地

方事務官ノ内一人)ヲ以テ之ニ充ツルコト

三 土地收用審査會委員ハ内務部長タ

ル書記官、土木課長タル地方技師土木

タル地方技師ナキ府縣ニ及府縣廳所在地ノ

稅務署長タル司稅官一人ヲ以テ之ニ充

ツルコト

内務省

四 前三號ノ内務部長タル書記官ニ付テハ当

省ニ於テ直ニ之ヲ命シ其、他ノ者ニ付

テハ府縣知事ノ内申ヲ待テ然ル後之

ヲ命スルコト

五 第一號乃至第三號ノ會口員委員ヲ命

セラレタル者其ノ關係府縣以外ニ任所ヲ

轉シタルトキハ會口員(委員)ハ之ヲ免セラ

レタルモノトス此ノ場合ニ於テハ府縣知事

ヨリ本人ニ對シ其ノ旨通知スルコト

附記

一六二七

會員(委員)ヲ命セラレタル者廢官退官
免官失官轉任若ハ休職ト為リタルト
キハ會員(委員)ハ自然消滅シタルモノトス
地方事務官ニシテ現ニ會員(委員)タル
者ハ轉免異動アルマデ其ノ儘存續スル
モノトス

案

年月日 祕書官

各府縣知事 宛 沖縄等ニ對シテ土地收用審
査會

内務省

通牒

府縣高等官ニシテ府縣參事會員
市吏員徵戒審査會員タルヘキ者並
町村高等文官ニシテ土地收用審査會委員
タルヘキ者ノ命免ニ関スル取扱方左ノ
通決定相成候

記

前記決定ヲ記載スル

明治三十三年三月九日

高等文官ニシテ收用審査會委員タルヘキ者ニ關スル件

發議

高等文官ニシテ收用審査會委員タルヘキ者ハ土地收用法第三十八條第二項ノ規定ニ依リ内務大臣之ヲ命セラルヘキ筈ニ候處右ハ左ノ職員ヲ以テ

以下別紙

一人
一人

但土木技師在職セサル府縣ニ於テハ他ノ高等文官

府縣廳所在地ノ稅務署長一人以上

右稅務署長ヲ以テ委員ニ充ツルニ付テハ左按ヲ以テ一應大藏省ヘ照會相成可然乎

按

收用審査會委員ハ土地收用法第三十八條ノ規定ニ依リ高等文官及府縣名譽職參事會員三名ヲ以テ之ニ充テ其高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内

務大臣之ヲ命セラルル義ニ有之右委員ハ府縣參事官一人府縣土木技師一人並ニ府縣廳所在地ノ稅務署長一人ヲ以テ之ニ充ツルニ於テハ適當ナル組織ヲ得ヘクト被存候處右稅務署長ヲ以テ委員ニ充テ候義ハ別段御異存無之ヤ折返シ御回答相成度此段及照會候也

内務次官

大藏次官宛

明治三十三年三月九日

高等文官ニシテ收用審査會委員タルヘキ者ニ關スル件

發議

高等文官ニシテ收用審査會委員タルヘキ者ハ土地收用法第三十八條第二項ノ規定ニ依リ内務大臣之ヲ命セラルヘキ者ニ候處右ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充テラルヘキコトニ決定相成可然哉

府縣參事官 一人

府縣土木技師 一人

但土木技師在職セサル府縣ニ於テハ他ノ高等文官

府縣廳所在地ノ稅務署長一人以上

右稅務署長ヲ以テ委員ニ充ツルニ付テハ左按ヲ以テ一應大藏省ヘ照會相成可然乎

按

收用審査會委員ハ土地收用法第三十八條ノ規定ニ依リ高等文官及府縣名譽職參事會員三名ヲ以テ之ニ充テ其高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内

務大臣之ヲ命セラルル義ニ有之右委員ハ府縣參事官一人府縣土木技師一人並ニ府縣廳所在地ノ稅務署長一人ヲ以テ之ニ充ツルニ於テハ適當ナル組織ヲ得ヘクト被存候處右稅務署長ヲ以テ委員ニ充テ候義ハ別段御異存無之ヤ折返シ御回答相成度此段及照會候也

内務次官

大藏次官宛

明治三十八年四月十九日

土地收用審査會委員ノ件

府縣高等官中ヨリ命セラルヘキ土地收用審査會委員ハ從來參事官、土木技師、府縣廳所在地ノ稅務署長ノ各一人ニ御命令相成ル事ニ御決定ノ處今般地方官官制改正ノ結果府縣參事官廢官トナリ土地收用ニ關スル事項ハ第一節ニ屬シ候ニ付自今第一部長タル事務官ヲ以テ之ニ充テラレ可然乎又從前ノ委員ニシテ廢官ノ即日同一官職ニ任官セル者ハ二十六年勅令第百九十八號ヲ準用シ繼續者ト御決定相成可然乎府縣知事ヘノ通牒案併テ相伺候也

通牒案

府縣高等官中ヨリ命セラルヘキ收用審査會委員ノ義ニ付三十三年三月廿四日付内第二八四號ヲ以テ御照會直候處今般地方官官制改正ノ結果府縣參事官ハ廢官ト相成候ニ付爾今第一部長タル事務官ヲ以テ之ニ充テラルル事ニ決定相成候間此段及通牒候也

秘書官

府縣知事宛（沖繩縣ヲ除ク）

（佐賀縣ヘハ左ノ追書ヲ加フ）

追テ貴縣收用審査會委員タルヘキ土木技師無之爲メ書記官ニ命セラレタル同委員ハ繼續スル義ト御了承相成度此段申添候也

明治三十五年三月

府縣參事會員補命方ノ件

發議

府縣制第六十五條第三項ニ依リ府縣高等官ノ中ヨリ命セラルヘキ府縣參事會員ノ義ハ知事ノ上申ニ基キテ之ヲ命セラル、例ニ候處知事ノ指
定ハ常ニ書記官參事官ニ限リ其他ノ高等官ニ參事會員ヲ命セラレタル
例嘗テ無之候案スルニ府縣參事會員ハ書記官及參事官ヲ以テ之ニ允ツ
ルヲ最適當ト認メ候ニ付自今其他ノ者ニ之ヲ命セサルコトニ内定相成
從テ收用審査會委員ノ例ト同シク知事上申ノ手續ヲ省略セシメ兩官更
送ノ都度直ニ之ヲ命セラル、様取計ヒ可然歎仰哉

高裁ノ上

通牒案

府縣制第六十五條ニ依リ府縣高等官ヨリ出ツヘキ府縣參事會員ノ義ハ
自今御内申ヲ要セス書記官及參事官ニ對シ直ニ之ヲ命セラルヘキ旨決

定相成候此段及通牒候也

秘書官

府縣知事宛（沖繩ヲ除ク）

神奈川兵庫長崎ヘハ左ノ追書ヲ加フ

追テ貴縣參事官ニ付テハ特ニ御指定御内申相成度候

明治三十八年四月十九日

府縣參事會員ノ件

府縣高等官中ヨリ命セラルヘキ府縣參事會員ハ從來書記官及參事官各一人ト御決定ノ處今般地方官官制改正ノ結果書記官參事官共ニ廢官ト相成候ニ付爾今事務官ヲ以テ之ニ充テフレ其第一部長タル事務官ハ府縣知事ノ内申ヲ待タス直ニ御命令相成他ノ一人ハ府縣知事ヲシテ其他ノ事務官中ヨリ選定内申セシメ然ル後御命令相成可然乎又書記官參事官中廢官ノ即日同一官廳ニ任官セル者ハ二十六年勅令第百九十八號（廢官廢廳若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官廳ニ在ル者即日他官ニ任セラルルトキハ勤續者タルニ依リ此際辭令ヲ用ヒス同會員ノ繼續者ト御決定相成可然乎府縣知事ヘノ通牒案併テ相伺候也

通牒案

府縣高等官中ヨリ命セラルヘキ府縣參事會員ノ義ニ付三十五年四月四日付内第三〇〇號ヲ以テ御通牒置候處今般地方官官制改正ニ付爾今事務官ヲ以テ之ニ充テラルコトトシ其第一部長タル事務官ハ御内申ヲ待タス當省ニ於テ直チニ命令ヲ發シ他ノ一人ハ貴官ニ於テ其ノ他ノ事務官中ヨリ選任御内申ノ事ニ決定且從前同會員ヲ命セラレタル書記官其他高等官ニシテ廢官ノ即日同一官廳ニ任官セル者ハ辭令ヲ用ヒス同會員ヲ繼續スル義ト決定相成候間右ニ御了承相成度此段及通牒候也

秘書官

府縣知事宛（沖繩縣ヲ除ク）

裏面白紙

府縣

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス
府ノ名譽職參事會員八十名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ七名ト

以下參考

シテ府縣參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命

内務省

第百一十号

府縣制

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員八十名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ七名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ス

内務省

裏面白紙

市判

第百七十條 懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

内務省

裏面白紙

所村三

第百五十條 懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

内務省

裏面白紙

裏面白紙

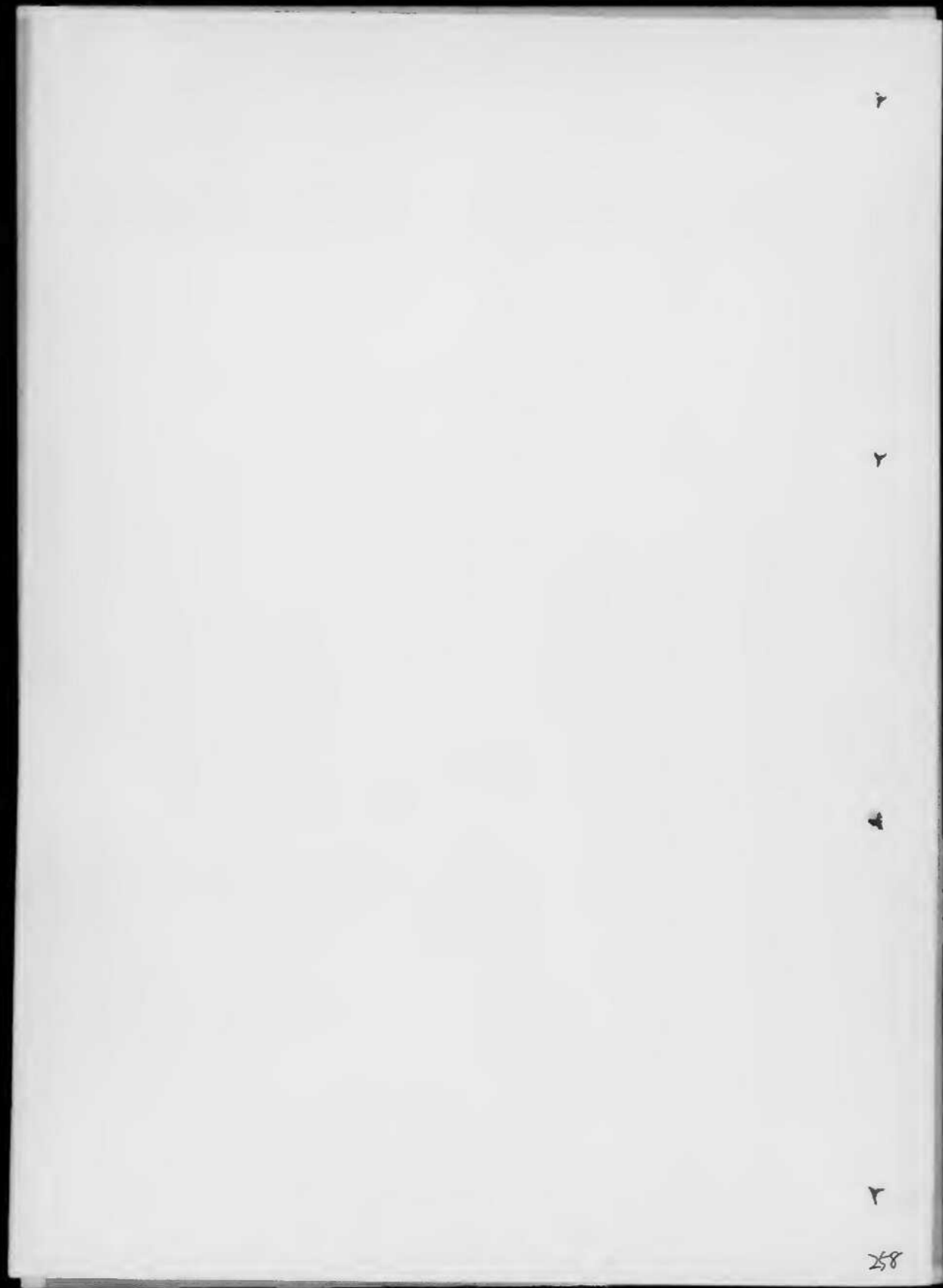
土地收用法

委員ハ高等文官及府縣名譽職參事会員
各三人ヲ以テ之ニ充ツ

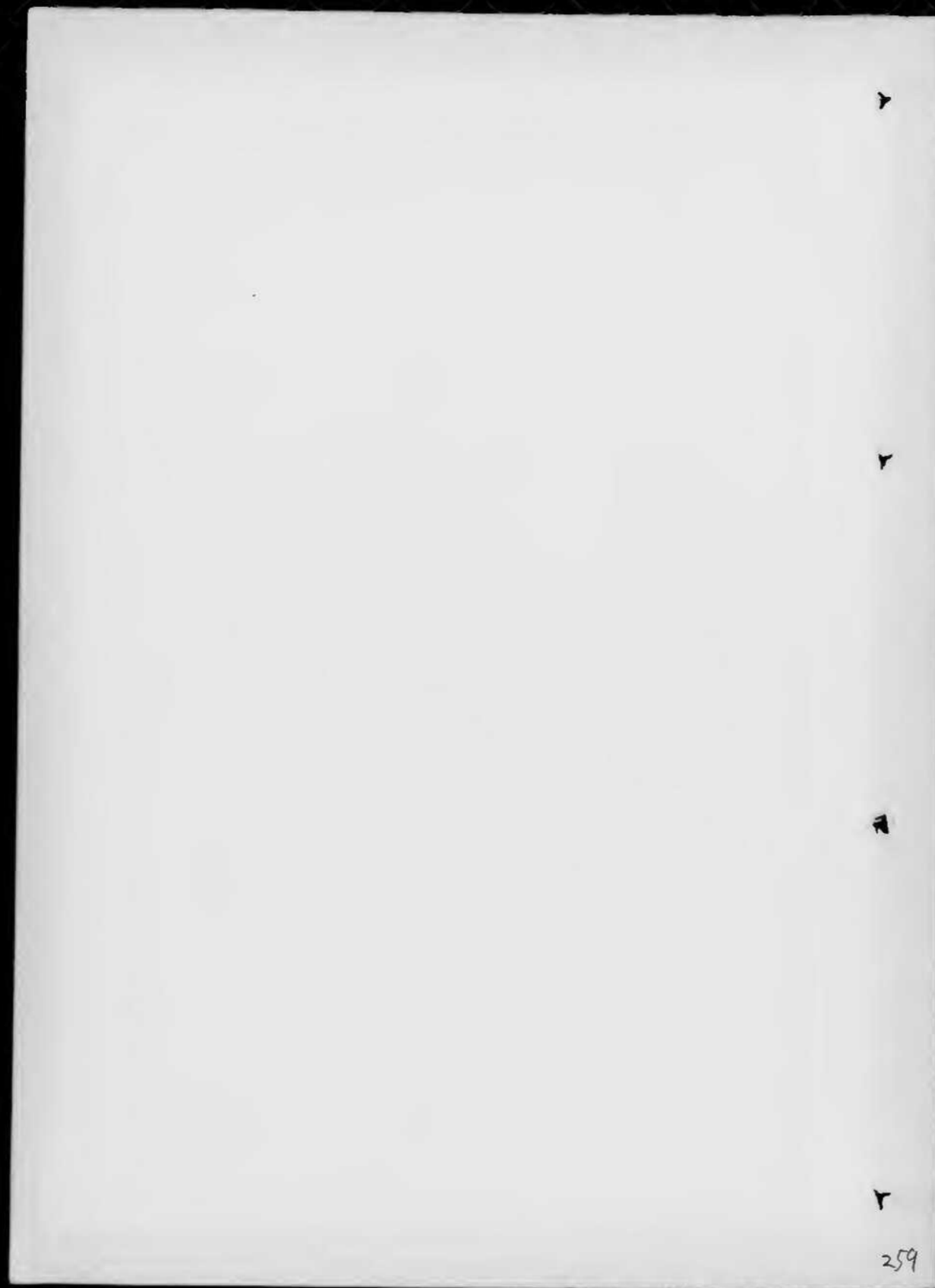
第三十八條 高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ス府
縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及中
緯州ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

内務省



裏面白紙



259

